

地域計画



地域計画概要

1 地域計画策定の趣旨

地域計画は、平成13年3月策定の北上市総合計画に合わせて策定されたことが始まりです。地方分権時代のまちづくりに不可欠な地域の発想を重視した施策展開に大きく貢献し、地域自治の意識醸成にもつながりました。

北上市の発展のためには、市全体としてのまちづくりと16地区の地域づくりが一体的に進められる必要があります。地域の将来像を自ら考え、地域資源を活かして将来像の実現に向けて取り組むとともに、地域の様々な組織が多様な活動を行う上での指針とするため、新しい総合計画においても、地域の方々に地域計画を策定いただきました。

2 概要

(1) 計画期間

基本計画と同様、2021年度から2030年度の10年間の計画です。

(2) 内容

● 地域の将来像

地域が目指す将来の姿を一言で表したものです。

● 私たちの目標

地域の将来像の実現に向けて、10年後に達成したいこととそのために必要な取組みです。

● 計画推進の方向性

暮らしに密着した地域の将来像を考えるため、テーマごとに2021年度から2025年度の5年間に重点的に取り組むことを検討しました。

3 策定体制

(1) 地域区分

地域づくり組織条例第2条第1項第1号に規定する地域を単位としています。

(2) 策定の組織

地区名	地域づくり組織名	地区名	地域づくり組織名
黒沢尻北	黒沢尻北地区自治振興協議会	口内	口内町自治協議会
黒沢尻東	黒沢尻東地区自治協議会	稲瀬	稲瀬町自治協議会
黒沢尻西	黒沢尻西地区自治協議会	相去	相去地区自治協議会
立花	立花自治振興協議会	鬼柳	鬼柳町自治振興協議会
飯豊	飯豊地区振興協議会	江釣子	江釣子地区自治振興協議会
二子	二子町振興協議会	和賀	和賀地区自治協議会
更木	更木町振興協議会	岩崎	岩崎地区自治振興協議会
黒岩	黒岩自治振興会	藤根	藤根自治振興会

(3) 策定メンバー等

幅広い年齢層、様々な分野からの人選、女性の参加など、多様なメンバーで策定しているほか、計画推進の方向性については、地域内団体や事業者など関わりのある方々を交えて検討しています。

また、中間支援組織に、勉強会やワークショップの開催を支援いただきました。

● 黒沢尻北地区 ●



● 現在の人口・世帯数

人口が12,745人、世帯数が5,711世帯(令和3年1月末現在)で市全体では減少傾向にある中で当黒沢尻北地区は人口及び世帯数ともに増加しています。

ただし、年齢65歳以上の老年人口の割合は23%と高齢化は進行しています。

● 地域の将来像

● 地域の将来像

安全で安心な老いも若きも暮らしやすい潤いあふれる文教地区を目指す。

● 伝えたいこと、残したいこと

- ・地域内での人との繋がりを大切に、世代間の交流を盛んにし、地域の活性化を図る。
- ・若者が地域に根差し、地域の行事にも参加しやすい環境を醸成していく。

● 私たちの目標

1. 生活環境のよいまちの実現

- ・東西交通のアクセス改善
- ・国道、県道の渋滞緩和
- ・未舗装道路、水路の整備
- ・路側帯、側溝の整備
- ・宅地開発地区の住居表示
- ・信号機の設置

2. 老朽化施設の処理と跡地利用

- ・老朽横断歩道橋の撤去
- ・老朽自治公民館の建替

3. 空地・空き家対策

- ・空地・空き家対策の制度化要望

4. 環境の維持や住環境の向上

- ・各地区の公園及び道路沿線清掃
- ・花いっぱい運動の推進
- ・景観資産の環境美化活動の推進
- ・さくらの木植樹運動推進
- ・岩手日報駅伝及び北上マラソンの通過道路沿線の清掃活動
- ・黒沢尻北小学校及び上野中学校周辺の清掃活動

5. 高齢者の生活しやすい街の実現

- ・既存街路灯のLED化の推進
- ・歩行者用信号機の移設要望
- ・祭りを利用した世代間交流の推進
- ・既存道路の側溝蓋の設置
- ・地区内の歴史遺産の探索やスポーツ活動を通じた高齢者の健康保持
- ・ごみ集積所の新設
- ・黒沢尻北小学校周辺や通学路等の信号機の無い横断歩道についてのストップマークの設置推進

6. 防犯・防災のまちの実現

(1)防犯の推進

- ・常盤台交番との連携強化
- ・防犯連絡会、子ども110番の家、子どもを見守る会の連携を強化

(2)防災の推進

- ・防災装備の整備
- ・自主防災活動の推進
- ・常習水害地域の調査・改善
- ・土砂災害や急傾斜地指定宅地の改善

7. 芸能・芸術がある潤いのあるまちの実現

- ・黒沢尻鬼剣舞の伝承、育成
- ・交流センター利用イベントの展開
- ・埋もれている芸能芸術の育成
- ・黒沢尻鬼剣舞後援会の設立

計画推進の方向性の整理

●子ども・子育て世代のために

- 地域の特徴 -

- ・黒沢尻幼稚園、ときわだい保育園、黒沢尻北小学校、上野中学校、黒沢尻北高等学校、北上コンピュータ・アカデミー、さくらホール等文教施設が充実している。

- 現状の課題 -

- ・黒北地区が東北本線により東西に分断されているとともに、交通量の増加に伴い交通安全インフラの改善が急務である。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・学校・家庭及び地域が連携し、交通安全や子供たちの健全育成に取り組む。
- ・子供たちの交通安全を図るため、小学校及び保育園付近の「ゾーン30」の周知のため旗の設置などの取り組みを実施する。
- ・防犯連絡会、子ども110番の家、子どもを見守る会の連携を強化する。
- ・当センターの子育て支援事業「きたっ子広場」等を通じ幼児を持つ保護者の子育てを支援する。

●働き盛り世代そして生涯現役のために

- 地域の特徴 -

- ・宅地開発が進み、集合住宅のほか戸建て住宅も増加し、住環境には恵まれている。
- ・購買、通勤、通院等の利便性に優れてる。

- 現状の課題 -

- ・交通量増加に伴う交通インフラ整備が急務である。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・未舗装道路、側溝や歩道等交通インフラの整備促進に取り組む。

●ご高齢世代・障がいを持つ人のために

- 地域の特徴 -

- ・一部を除き高齢化が進展
- ・元気な高齢者も多い

- 現状の課題 -

- ・高齢化から空き家への移行

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・生涯学習事業の充実

●推進体制・負担軽減と新しい役割分担

- 地域の特徴 -

- ・実施主体は6つの行政区から成る黒北地区自治振興協議会

- 現状の課題 -

- ・担い手の高齢化

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・担い手の育成、若返り
- ・専門部会の設立、充実
- ・防災装備の整備

● 黒沢尻東地区 ●



現在の人口・世帯数

●人口：12,181人

●世帯：5,637戸

(令和3年1月末現在)

地域の将来像

●2040年の目指すべき地域像

「北上の玄関口であり、歴史・文化・自然環境を継承し、誰もが住みよい街づくりを目指す」

●私たちが2040年の地域に「残したいこと・伝えたいこと・大切にしたいこと」

(1)黒東地区は北上川舟運で栄えた黒沢尻河港を背景に、神社・仏閣・遺跡・民話・伝統芸能等の歴史・文化を継承し地域の発展を目指してきた。

又、北上の玄関口であり、平和街道の拠点地でもあり、四季折々の行事に観光客が訪れることから安全で安心な街づくりを目指す。

(2)高齢者や子供が安心して暮らせる街づくり。
→地域見守り活動・ふれデイや百歳体操の継続

(3)災害対応、防災防犯・安全安心の街づくり。
→災害訓練と「近所同士の助け合いが出来る街」

(4)自然環境(歴史公園等を含む)の美化。
→「児童・生徒や地域住民と一緒に公園や生活道路際等のクリーン活動」

(5)東地区の歴史・文化・遺産・芸能保存、継承
→「東地区交流まつり・史跡巡り・文化祭など作品展示」等の開催。

●私たちが2040年に向け、これから地域で「変えなければならないこと」

(1)地域住民のコミュニケーション希薄⇒世代間交流(高齢者や児童生徒保護者との情報交換)・スポーツ会・芸能祭等参加者による交流を図る。

(2)地域事業に関心を持たせる
→特にアパート住人等親子で参加できる行事の開催。

(3)街中の活性化
→「街中の賑わいの取組」の検討

(4)役員の若返り・次世代の担い手育成・リーダー育成
→「各種趣味の行事を開催し、参加者の中から協力者を見つける」

私たちの目標

●地域の将来像の達成のために「2030年までに達成したいこと」

1. 防犯・災害体制の強化
2. 老若男女の共同による街づくりの強化
3. 文化歴史芸能の継承

●そのために必要な取り組み

1. 災害体制の強化。

・各行政区で勉強会を行って住民に周知させていく。

防犯の強化

・公園の植木の剪定を定期的に行って見晴らしを良くしておく。

・子ども110番の拡充

・学校や関係機関との連携を図る。

2. 地区住民に声がけをする。

コミュニケーションを頻繁にとる。

・小学校、中学校、保護者との世代間交流を図る。

・組織の若返り。

3. 小鳥崎さんさ等の継承、交流まつりや地区運動会等の発表の場をつくる。

4. 住居表示及び町名変更。

・東地区は更に世帯数が増えると推定。例えば「里分何地割何番地」表示などを、「何丁目何番」と分かりやすくする。

計画推進の方向性の整理

●子ども・子育て世代のために

- 地域の特徴 -

1. 学童が多くなっている。

・住宅地の増加、親の転勤で転入者が多い。

・地元民とそうでない世帯が混ざっている。

・共働き世帯が多い。学童保育所の増設。

2. 歴史的文化遺産が多く伝承活動がある。

3. 地域で続けている活動(まつり、ボランティア活動など)が多くある。

- 現状の課題 -

1. 地域のコミュニケーションが弱い。

2. 子供が中学生以上になると親世代が地域と関わらなくなる。

3. 見守り活動の高齢化。保護者の協力も必要。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

1. 三世代で、地域の人と歴史を知り、文化を楽しもう。

- 地域づくり組織の他、地域内で取り組みたいこと -

1. 小学校・中学校との連携。
 - ・学校行事や学校がしたい活動を地域で応援していく。
 - ・子供たちと地域の交流の場を作る。
2. 地域・学校を巻き込んだ歴史的文化遺産の伝承活動。
3. 見守り活動、あいさつ運動の継続。

●働き盛り世代そして生涯現役のために
(この地域らしい暮らし方)

- 地域の特徴 -

1. 地域活動に参加する人員が少ない。
2. 役員が高齢者で継続している。
3. 世代間交流の不足。
4. 仕事の現役の方が、自治組織活動に参加しない。

- 現状の課題 -

1. 地域住人のコミュニケーション。
 - 例) ゴミ当番を輪番制にした所、地域に新しく入った人との交流ができていない。
2. 地域活動の活性化。
3. 地区事業に若者の参加が少ない。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

1. 地区住人のコミュニケーション化。
2. 交流事業の活性化。
3. 幅広い世代と地域の交流。
4. 現役引退後も地域のためになる活動。

- 地域づくり組織の他、地域内で取り組みたいこと -

1. 世代間交流と遊びの取り入れ。
2. 家族で参加できる行事。
3. 若年層の自治会参加。
4. リーダー育成。

●ご長寿世代・障がいを持つ人のために

- 地域の特徴 -

1. 高齢者が増加し、一人暮らし、高齢者夫婦世帯が多い。
2. 80代親と50代独身の子の世帯が増えている。
3. ふれあいデイサービス活動が活発。

- 現状の課題 -

1. 高齢者が増加し、一人暮らし、高齢者夫婦世帯が多い。
2. 高齢のため班長等の区の役割ができない人もいる。
3. 要支援者が増加しているにもかかわらず、隣同士の交流が希薄になっている。
4. 障がい者世帯の情報が少ない。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

1. 高齢者に積極的に声をかけ、行事等への参加を促す。
2. 地域で見守り、高齢者・障がい者が安心して暮らせる街づくりを推進。
3. 運動会や軽スポーツ大会を積極的に行い世代間の交流を図る。

- 地域づくり組織の他、地域内で取り組みたいこと -

1. 誰でも気軽に通える(お茶のみや世間話ができる)場を設ける。
2. 運動会や軽スポーツ大会を積極的に行い世代間の交流を図る。
3. 住居表示と町名を変更し福祉活動をしやすいとする。

●計画実現に向けた推進体制(地域づくり組織運営・担い手等)

- 地域の特徴 -

1. 役員の担い手不足は退職時までには後継者への育成指導を要する。
2. 就業後、定年後の雇用の選択による地域協力が少なくなっている。
3. 避難支援体制の整備については支援登録者が増加傾向にあり各自主防・消防団・民生委員との更なる連携が必要である。

- 現状の課題 -

1. 次世代のリーダー育成について地域行事等を通じ若者の参加出来る環境が不足している。
2. 若者の参加が少なく、地域づくり組織運営について理解に欠ける。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

1. リーダーの育成。
2. 要支援者登録と家族への避難指導。
3. 地域のボランティア活動への積極的協力。
4. 市職員(現職)の地域課題への推進参加協力。
5. 世代交流の為に行事取り入れ。
6. 景観資産の地域発掘。

- 地域づくり組織の他、地域内で取り組みたいこと -

1. 新規活動へのアイデアを模索する。地域の特色を見出し、伝統を保存し継承する。
2. 子ども会・高齢者との積極的な交流行事を優先的に設定する。

● 黒沢尻西地区 ●



● 現在の人口・世帯数

●人口：9,079人

●世帯：4,686戸

(令和3年1月末現在)

● 地域の将来像

● 2040年の目指すべき地域像

「安心と安全な暮らし・笑顔とやさしさのあふれる街」

● 私たちが2040年の地域に「残したいこと・伝えたいこと・大切にしたいこと」

- ・「あいさつ運動」の実施
- ・「運動会」「文化祭」「まつり(山車)」「宵宮」「旅行会」等のイベントを実施して、地域住民同士の交流を図り、連帯感を醸成すること
- ・避難訓練等を実施して防災意識を高め、自助共助の重要性を認識すること
- ・地域の清掃、花いっぱい運動等環境美化に取り組み清潔で明るい街をつくること

● 私たちが2040年に向け、これから地域で「変えなければならないこと」

- ・アパート等の住人が増加して、市外からの転入者(2019年度658人)が居住しているが、従来からの住民との交流が希薄で自治会活動への参加が消極的である
- ・安心安全の街づくりには、住民の自治会の必要性の認識と事業への積極的な参加が不可欠である
そのためには、現在の住民及びこれから地域に居住しようとする人々に、地域や自治会活動の情報を発信していく必要がある
- ・地域情報発信(ソーシャルメディアへの取組)

● 私たちの目標

● 地域の将来像の達成のために「2030年までに達成したいこと」と「そのために必要な取り組み」

1. 子どもたちが伸び伸びと活動できる教育環境の整備
→黒沢尻西小学校と北上中学校のハード面の整備、公園を全行政区に設置することを地域の声として要望していく(計画的に部分的な整備は行われてきているが、地域住民にとって満足できるものではない)
2. 外国人の居住者が増え、その傾向の持続が予想されるので外国人の居住者と共存共栄を図っていくこと
→外国人が言葉の壁を越えられるよう支援体制の確立(寺子屋式の日本語教育の場を模索する)
3. 高齢者家庭、障がい者へのサポート体制づくり
→民生児童委員、福祉協力員の方々への地域での支援体制づくり
4. 防災意識の啓蒙と防災訓練の実施
→各自治会における定期的な防災教育や防災訓練の実施(自主防災会マニュアルの確立)
5. あらゆる分野のインフラ整備
→市に要望する。

計画推進の方向性の整理

●子ども・子育て世代のために

- 地域の特徴 -

- ・児童生徒とも徒歩で通学できる恵まれた環境にある。子どもたちへの見守り、子育て世代への支援は、積極的に推進されている。近年、外国人子女が増えている。

- 現状の課題 -

- ・少子化に加えドーナツ化現象により子どもの数が減少している。さらに教育の中心となりうるべく小・中学校は、校舎が老朽化しており、子どもたちを取り囲む環境は悪い。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・ハード面での教育環境整備等の要望と活動。外国人居住者との交流とその場づくり。
- ・青少年の健全育成のための活動。

●働き盛り世代そして生涯現役のために

- 地域の特徴 -

- ・働き盛り世代は、価値観が多様化しライフスタイルも自己完結化しているため地域との結びつきが薄い。

- 現状の課題 -

- ・働き盛り世代は、高いスキルを持っている。この世代の地域活動への参加が少ないので、積極的な参加を促し自治会活動を活性化すること。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・働き盛り世代の持つスキルを地域で活用すること。(自治会等のイベント企画運営、講習会の講師依頼など)
- ・自治会や各種団体、伝統的事業の後継者の育成。

●ご長寿世代・障がいを持つ人のために

- 地域の特徴 -

- ・2030年には黒西地区の高齢化率は、予測によると人口の約30%になる。高齢化率の拡大の中、自助・共助の精神を培ってきた。一人暮らし高齢者、障がい者へのサポート体制づくりを推進している。

- 現状の課題 -

- ・一人暮らし高齢者の増加と障がいを持つ人の状況が不明瞭。長寿世代・障がい者を支える人的資源の不足。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・一人暮らし高齢者、障がい者へのサポート体制づくり。

●計画実現に向けた推進体制

- 地域の特徴 -

- ・黒西自治協議会は、街なか地域にあり“歩いて用の足せる地域”であり恵まれているが、インフラの不備も目立つ。又、後継者不足であり役員が固定化しイベント参加者も高齢者に偏っている。

- 現状の課題 -

- ・自治会や各種団体の役員及び参加者を幅広い年代に拡大すること。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・地域の情報発信(ソーシャルメディアの取組)。
- ・若年層と新住民の地域参加と地域の担い手の育成。
- ・あらゆる分野のインフラ整備と住みよい環境づくり。

● 立花地区 ●



現在の人口・世帯数

●人口：1,957人

●世帯：805戸

(令和3年1月末現在)

地域の将来像

●2040年の目指すべき地域像

※ワークショップの成果から

- ・安全安心のまち
- ・美しい自然の里
- ・互助のまち
- ・生涯学習のまち

●私たちが2040年の地域に「残したいこと・伝えたいこと・大切にしたいこと」

- ・ほかに誇れる自然環境
- ・郷土の歴史を語り、文化を継承する態度
- ・生涯学習のサービスと気風
- ・災害に強い生命尊重のまち

●私たちが2040年に向け、これから地域で「変えなければならないこと」

- ・教育を充実させるために必要な環境や人的物的な資源とその機会を提供していきます。
- ・事業を工夫・整理・精選し地区民により良い生活環境と支え合いの仕組みをつくります。
- ・地域づくり学習会と負担の少ない取り組みや体制づくりを進めます。

私たちの目標

●地域の将来像の達成のために「2030年までに達成したいこと」

1.「地域全体で子どもを見守り、育てる環境をつくります」

- ・地域全体で生涯学習の知的な環境を求め、ICTを活用した学び合いを推進します。
- ・幼児期からの教育を重視し、学童期の徳性や問題解決能力の育成を支援します。

2.「支え合い、助け合いで安心な暮らしを守ります」

- ・互助の精神を継承し、安全な暮らしと感謝の気持ちを大切にすウェルネスを推奨します。
- ・被災の反省に基づく知恵を防災計画に生かし、生命尊重を徹底する地域防災活動を推進します。
- ・誰でも気軽に集まり交流できる「場」をつくります。

3.「持続可能な地域づくりに取り組みます」

- ・地域づくり条例の趣旨を尊重し、地域づくり計画のP・D・C・Aの仕組みを具体化します。
- ・過疎化、少子化、高齢化の現実を受け止め、福祉づくりなど無理のない地域づくりを進めます。
- ・まちづくり活動を整理、精選し市の事業と地域の行うべき事業を調整します。
- ・若者やNPO、法人の参画を応援し、地域活動への参加を促します。

4.「豊かな自然環境や歴史文化を維持・活用します」

- ・自然を保全し、他分野と連携した取り組みで地域活性化につなげます。
- ・地域の歴史・文化を次世代に継承します。
- ・自然環境と生活環境が融和した、景観美を誇るスロースライフを推奨します。

計画推進の方向性の整理

●子ども・子育て世代のために

- 地域の特徴(どんな子どもが育ってほしいか) -

- ・ふるさとへの誇りをもつ子ども
- ・問題解決能力のある子ども
- ・国際感覚とICTを活用できる子ども
- ・周囲への思いやりがあり、人との絆を大切にしている子ども

- 現状の課題 -

- ・家庭、学校、地域のサポートする環境を整える必要があります。
- ・自主性、チャレンジを応援する体制が必要です。
- ・多世代交流の中で、思いやりや支え合い、マナーなど大人の手本が必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・質の高い教育を求める世論を形成します。
- ・地域の教育財の提供により、問題解決のための探求態度を育成します。
- ・子どもの権利条約、共同親権など人権について学ぶ機会をつくります。

●働き盛り世代・地域らしい働き方・暮らし方

- 地域の特徴 -

- ・気候的地理的に比較的居住性が良い。
- ・自然と調和した生活が可能です。
- ・ウェルネスライフが可能です。
- ・米や野菜、果物などを自給自足し、実りを分かち合うことができます。

- 現状の課題 -

- ・下水、道路などのインフラが未整備なところがあります。
- ・世代を超えたコミュニティーの場が必要です。
- ・里山やすそ野の自然保存が急務です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・意欲的な地域づくりのための意識調査や企画募集に取組みます。
- ・自然をプロモーションし、資源化するためにNPOや各種法人と共同作業を進めます。
- ・働きやすく暮らしやすいまち、参画できるまちづくりを進めます。

●ご高齢世代・いろいろなちがいのある人のために

- 地域の特徴 -

- ・老々介護や高齢者の一人暮らしが増加しています。
- ・施設を利用した介護予防の取り組みを実施しています。
- ・思いやりはあるがノーマライゼーションの取り組みが弱いです。

- 現状の課題 -

- ・近所で喫茶したり趣味のため気軽に移動する手段、場所が不足しています。
- ・免許返納などにより高齢者の生活範囲が委縮したのになっています。
- ・困り事や相談事の解決手段のハードルが高いと感じます。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・気軽な日常的交流のための機会と場を提供します。
- ・近所同士の声掛けや見守りを行い、コミュニケーションなど、互助の環境づくりを進めます。
- ・無理のないごみ出し、除雪などの支援互助を進めます。
- ・介護保険法など高齢者の公的サービス受給と関係団体の知識を学びます。

●推進体制・負担軽減と新しい役割分担

- 地域の特徴 -

- ・高齢化、若年層の無関心により行政などの要請委員のなり手がなく、選出に苦慮しています。
- ・働き方改革により60歳以降の担い手が就労の方向にあり、無償ボランティアは終焉期にきています。

- 現状の課題 -

- ・地域組織の体制、事業を見直し、互助、健康と安全安心、衛生的環境を確保することが必要です。
- ・投資財源なしに長期ビジョンの立案は不可能です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・自治振組織、行政区、自治公民館の在り方を精査し、これからの時代に合わせた体制づくりを進めます。
- ・財源と人材の確保に努めます。
- ・若年層がまちづくりに参加しやすい計画の具体化を進めます。
- ・有償ボランティアについて学習し、役員制度の活発化を進めます。

● 飯豊地区 ●



現在の人口・世帯数

●人口：11,041人

●世帯：4,625戸

(令和3年1月末現在)

地域の将来像

●2040年の目指すべき地域像

『ともにつながり、黄金色に輝く 北の大地いよいよ』

誰もが実りある生活を過ごせるように、若者・高齢者・子供たちが安心して暮らせる生活環境の整備と地域活動の様々な交流を通じて飯豊ならではの地域の特性である、自然の景観を守りながら、農業・工業と共存共栄のとれた『まち』にする。

●私たちが2040年の地域に「残したいこと・伝えたいこと・大切にしたいこと」

- ・豊かな自然環境と田園風景のある農村景観をまもりまします。
- ・人と人とのつながりを大切に、さまざま活動をととしたコミュニケーションを大切にします。
- ・学ぶ・働く・暮らすがつながり、ゆとりのある生活が実現できる環境を守ります。
- ・神社でのお祭り、火防災や民俗芸能など、これまで培ってきた文化を後世につないでいきます。

●私たちが2040年に向け、これから地域で「変えなければならないこと」

- ・田畑の維持、環境に配慮した開発や空き家・空地等の有効活用など、都市と農村の共生に向けた取り組みをより強化する必要があります。
- ・広い地域で誰もが移動できる環境を整える必要があります。
- ・若い人や地区外から転居してきた人など、多様な人が地域のコミュニティへ参加しやすい仕組みづくりが必要です。

私たちの目標

●地域の将来像の達成のために「2030年までに達成したいこと」

1. 「地域の担い手が育つコミュニティおよび持続可能な組織体制をつくりまします」

- ・新しく地区に入ってくる人達や生まれてくる子ども達が地域活動に参加しやすくなるようなコミュニケーションを図っていきます。
- ・特に若者が地域で活躍できる機会を積極的に増やし、担い手を育てていきます。
- ・子ども達が伸び伸び育つよう、多世代が関わりながら子どもの成長を見守ります。
- ・既存の行事や組織の見直しを行い、変化する社会に対応しながら負担の軽減に努めます。

2. 「みんなが自分らしく豊かに暮らせるまち、安心して暮らせるまちづくりを進めまします」

- ・何歳になっても生きがいをもって活動できる役割や学び合える場をつくりまします。
- ・思いやりの気持ちをお互いに持つことや地域で支え合う仕組みづくりを行うことで、年をとっても病気になっても安心して毎日を過ごせる地域をつくりまします。

3. 「誇るべき地域の歴史文化や自然環境をしっかりと未来へつないでいきます」

- ・開発を進める区域と自然景観を守る区域を明確にし、豊かな自然環境を守りながらまちづくりを進めまします。
- ・民俗芸能などのこれまで地域で培ってきた文化や郷土の歴史を大切に、次世代へ継承していきます。

計画推進の方向性の整理

●子ども・子育て世代のために

- 地域の特徴(どんな子どもが育ってほしいか) -

- ・さまざまな人とつながりを持ち、やさしさをかたちにできる子ども
- ・未来にむかって、チャレンジする子ども
- ・健康で、よく学び、よく遊ぶ子ども

- 現状の課題 -

- ・地域の人、年代の違う人など、多様な人とのつながりづくりが必要です。
- ・豊かな自然環境を中心とした地域らしい学びの場が必要です。
- ・好きなことを発見し、伸ばすことができる教育環境の整備が必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・いろいろな地域行事で、世代間交流を意識した取り組みを進めていきます。
- ・地域の人が先生となり、子ども達の個性に合わせた学びの環境をつくります。
- ・自然や郷土芸能など、飯豊らしい豊かさを感じられる取り組みを進めます。

●働き盛り世代・地域らしい働き方・暮らし方

- 地域の特徴 -

- ・広大な田園風景の中での暮らしを大切にしています。
- ・地域活動が盛んで、人のつながりを大切にしています。
- ・働く場所が近く、ほどよい利便性がある場所です。

- 現状の課題 -

- ・新しい住民の方とのつながりづくりが必要です。
- ・地域が広く、また交通量も多いため、安全に移動するための取り組みが必要です。
- ・工業団地等の開発が進む中で、地域の資源を守るための取り組みが必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・住民同士のコミュニケーションをより推進する取り組みを行います。
- ・特に交通弱者といわれる世代の安全な移動の実現に向けた取り組みを行います。
- ・さまざまな開発がある中で、飯豊の自然・田園景観を守るための取り組みを行います。

●ご高齢世代・いろいろなちがいのある人のために

- 地域の特徴 -

- ・病院、診療所、薬局、介護施設やスポーツ施設、スーパー等、生活の基盤となる施設が地域内にそろっています。
- ・JR、路線バス、コミュニティバス等の公共交通が確保されています。

- 現状の課題 -

- ・高齢者が増加するなかで、集まれる場のさらなる拡充が必要です。
- ・地域が広く、また交通量も多いため、地域内で集まるための移動手段が自家用車を頼らざるを得ない状況であり、対策が必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・認知症や介護について学びあい、理解を醸成していきます。
- ・高齢者自身が役割があり、支える側にもなれる取り組みを進めていきます。
- ・地域内のそれぞれの組織ができる工夫を行い、地域全体での見守りを充実させていきます。
- ・新しい情報技術等を活用して、より効果的な生活支援の仕組みを構築します。

●推進体制・負担軽減と新しい役割分担

- 地域の特徴 -

- ・アパート等が増えて、地域外から多くの方が引っ越されて来る地域です。
- ・地域が広く、人口減少や高齢化が進むエリアと、人口が増加しているエリア等、地域の中でも状況が大きく異なります。

- 現状の課題 -

- ・自治会の行事および会議が多く、負担軽減が必要です。
- ・各イベント・行事に対して、特に若い人の参加が少なく、見直しが必要です。
- ・地域の役割に対する担い手が少なく、役割に対する見直しが必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・若い人や他地域から引っ越してきた人など、これまで地域活動との接点が少なかった人たちが参加しやすい雰囲気づくりを進めます。
- ・社会の多様化にあわせた事業・行事の見直しの推進を行います。
- ・これまで当然であった地域の役割や各地区の役割を見直し、必要な役割を精査するとともに、若い人たちが参加し得るような組織体制を構築します。

● 二子地区 ●



現在の人口・世帯数

- 人口：3,485人
- 世帯：1,305戸
- 行政区：8
- 町内会等：13

(令和3年1月末現在)

地域の将来像

●2040年の目指すべき地域像

豊かな自然と
人のつながりを大切にする
住みよいまちふたご

●私たちが2040年の地域に「残したいこと・伝えたいこと・大切にしたいこと」

- ・川があり山があるのどかな田園風景が広がる自然豊かなまち。
- ・肥沃な土壌で育まれる、特産品の二子さといもをはじめとしたおいしい農作物。
- ・会えばお互いに声を掛け合うような近所づきあいがある地域。
- ・火防祭やいものこまつり、そして多数伝承される民俗芸能といった地域らしい文化。

●私たちが2040年に向け、これから地域で「変えなければならないこと」

- ・大人がそれぞれの地域活動をとおして連携しながら子ども達と積極的に関わり、健やかな成長を地域で支えていく必要があります。
- ・変化する社会の中でこれまでの地域活動を整理し、将来も持続していけるように変えていく必要があります。
- ・住民それぞれが役割を持つことでお互いに支え合う仕組みをつくる必要があります。
- ・これからの地域の担い手を育てていくため、地域活動に様々な人が参加できるような手法や雰囲気づくりに取り組む必要があります。

私たちの目標

●地域の将来像の達成のために「2030年までに達成したいこと」

1.「恵まれた自然、水と緑の風景を守り残すこと」

- ・豊かな景観資源を広く周知し、自然環境保全活動を実施する。また、子供世代へ継承していくため自然体験事業を開催する。

2.「人のつながりを残すこと」

- ・学校を含めた諸団体と連携しながら負担が少なく参加しやすい行事、顔の見える付き合いを残していくことで、広い世代の人のつながりを作り続ける。

3.「地域の担い手を育てること」

- ・未来の地域を支える若年層や女性同士のつながりの場や意見を言える場、声を聴ける場を作り、時代にあった地域活動が出来るよう環境整備する。

計画推進の方向性の整理

●子ども・子育て世代のために

- 地域の特徴(どんな子どもが育ってほしいか) -

- ・自分のやりたいことを見つけ実現に向けて自ら考えて動く子ども
- ・周囲や地域とのつながりを大切にできる明るくコミュニケーション能力が高い子ども
- ・命や多様性を大切にしながらどんな状況でも生きぬく力を持った子ども

- 現状の課題 -

- ・地域の中で子どもたちが主体的に活動できるような機会やサポートが必要です。
- ・世代間交流をとおして地域の資源を子ども達に触れさせる場が必要です。
- ・日頃の挨拶や行事への取り組みなど、大人が積極的に子どもに手本を見せることが必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・地域の大人が子育てや教育に責任をもって関わり、積極的に子どもたちと接する機会をつくっていきます。
- ・地域の行事の中に子どもが主役となる取り組みを増やしていきます。
- ・地域の自然や景観を守り、その中で子どもが生き生きと学び育つ環境をつくりまします。
- ・火防祭や郷土芸能などの二子らしい文化を継承していく取り組みを進めます。

●働き盛り世代・地域らしい働き方・暮らし方

- 地域の特徴 -

- ・地理的表示(GI)保護制度にも登録された地域を代表する特産品「二子さといも」の生産が盛んです。
- ・神楽や鬼剣舞といった民俗芸能や火防祭の文化が地域に根付いています。

- 現状の課題 -

- ・地域の誇る自然や農業を後世に残すための取り組みが必要です。
- ・様々な人がこの地域で幸せに暮らすための環境を整える必要があります。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・家族やご近所付き合い、民俗芸能や祭りといった地域でのつながりから生まれる絆を深めるような取り組みを行います。
- ・豊かな自然環境や特色ある農業がこれからも維持できるような取り組みを考え進めていきます。
- ・新しい働き方や暮らし方、挑戦に寛容な地域の雰囲気をつくりまします。
- ・この地域で安心して暮らすために災害に強いまちづくりを進めます。

●ご長寿世代・いろいろなちがいのある人のために

- 地域の特徴 -

- ・挨拶がよくかわされ、昔からのご近所づきあいの文化が残っています。
- ・冠婚葬祭等の助け合い、食べ物のおすそ分けなど支え合う習慣が残っている。

- 現状の課題 -

- ・生活様式の変化により人の集まりの機会が減少していく中、孤独を感じないようなつながりが必要です。
- ・人口減少社会でも地域コミュニティを維持するために住民同士で支え合う体制が必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・いつでも気軽に集まり、ゆるやかに交流ができる場所や、やりたいことができる場所を地域に増やしていきます。
- ・日頃から声掛けや相談をし合えるご近所コミュニティや世代間交流をさらに充実させます。
- ・有償ボランティア等、支え合いの仕組みをつくることで、高齢者や一人暮らしの方の困りごとに対応します。
- ・多様性を尊重し、誰もが自分らしく暮らせる地域づくりを推進します。

●推進体制・負担軽減と新しい役割分担

- 地域の特徴 -

- ・スポーツ大会などの地域行事の数が多く、地区で参加者集めに苦労しています。
- ・組織や行事が硬直化し、新しい参加者や担い手の育成が必要です。

- 現状の課題 -

- ・これまでなかなか地域活動に参加できなかった若者や女性が参加しやすい組織環境、行事運営、会議設定などを検討する必要があります。
- ・人口減少が進む中、行政区や自治会の枠組み等を含め、これまでの組織や行事を整理見直しし、将来の負担を減らす取り組みが必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・多数ある地域のイベントを整理し、同時開催や隔年開催などを行うことで負担の軽減に努めます。
- ・特に若者や女性が主体的に参加できるイベントにしておくことで将来の担い手づくりに繋がります。
- ・会議の開催手法や周知にICT技術を活用するなど、様々な人が参加しやすい工夫を行います。
- ・子どもも高齢者も地域の中で役割を持って活躍できる環境をつくりまします。

● 更木地区 ●



現在の人口・世帯数

●人口：1,049人

●世帯：411戸

(令和3年1月末現在)

地域の将来像

●2040年の目指すべき地域像

「豊かな自然、歴史文化の継承、活力に満ちた笑顔あふれる更木」

更木は自然環境に恵まれた地域で多くの歴史文化があります。子供から高齢者まで生き生きと暮らせる活気のある更木の将来像です。

●私たちが2040年の地域に「残したいこと・伝えたいこと・大切にしたいこと」

- ・しらゆり公園やホテルの群生地などの豊かな自然環境を残していきます。
- ・郷土芸能や八天遺跡をはじめとした史跡など地域の歴史文化を伝えていきます。
- ・桑葉加工、養蚕などの地域産業を確立します。
- ・地域内の相互扶助の精神や、世代間交流などを通じて元気な子ども達を育みます。

●私たちが2040年に向け、これから地域で「変えなければならないこと」

- ・世代を越えて学び合い成長し合える地域をつくります。
- ・いままでの考え方や風習にとらわれず、新しい発想や視点を大切にします。
- ・互助による支え合いの仕組みを構築し、誰もが安心して暮らせる地域をつくります。
- ・若者達が主体的に参加できる雰囲気や、さまざまな人のチャレンジを地域で応援できる環境をつくります。

私たちの目標

●地域の将来像の達成のために「2030年までに達成したいこと」

1. 安心安全に暮らせる生活環境基盤の整備に努めます

- ・送迎サービスや買い物代行などの互助による生活支援の仕組みを構築し、年をとっても安心して暮らせる環境の整備
- ・自然環境の整備、未利用の土地や空き家を活用する取り組みの推進
- ・防災や防犯を徹底し、安全に暮らせる環境づくり
- ・少子化対策事業の継続推進

2. 健康で暮らしやすい、子育てしやすい環境づくりを推進します

- ・子育て高齢者福祉ネットワーク
- ・地域と学校が連携した、子ども達の主体性と個性を伸ばす教育環境づくり
- ・子ども達と関わっていく中で地域の大人も学び合える行事や生涯学習の推進
- ・自然や歴史文化など更木らしい地域資源に子ども達が触れる環境づくり
- ・誰もが生きがいや役割を持ち自分らしく社会参加ができる環境づくり

3. 地域産業の活性化に努めます

- ・地域で働くことができる仕組みや環境づくりへの取組。
- ・農業・林業で生活する事が出来るベースづくり
- ・働く人材の確保
- ・農産物などの地域ブランドの開発
- ・外部への発信を促す広報活動の取組

4. 更木の自然環境・歴史文化の保存に努めます

- ・特色ある地域の歴史文化を伝承・記録・発信する取り組みの推進
- ・子供達がふるさとを愛し、いつまでも住み続けたいと思える環境の整備
- ・自然環境・歴史文化の保全、自然環境の整備
- ・豊かな自然を活かした観光交流の促進

5. 地域のコミュニケーションの向上と地域づくりを推進します

- ・住民間のコミュニケーションを円滑にし、多様な暮らしを尊重し合える地域環境づくり
- ・交流センターや公民館など、地域内で気軽に集まり話ができる居場所等の環境整備
- ・行政区などの統合や、組織団体の役職の見直しを行い、負担の少ない体制づくりの推進

計画推進の方向性の整理

●子ども・子育て世代のために

- 地域の特徴(どんな子どもが育ってほしいか) -

- ・自分の頭で考え、前向きにチャレンジする子ども
- ・誰に対しても思いやりを持ち、コミュニケーションがとれる子ども
- ・自然と共生し、たくましく生きる元気で明るい子ども

- 現状の課題 -

- ・子どもの趣味や興味を伸ばし、主体的に取り組める環境が必要です。
- ・優しさや思いやりを育む、日頃からの地域とのコミュニケーションが必要です。
- ・子どもたちの学びをより豊かにするための地域内資源の活用が必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・地域と学校が連携した、子ども達の主体性と個性を伸ばす教育環境づくりに取り組みます。
- ・子ども達と関わっていく中で地域の大人も学び合える行事や生涯学習を実施します。
- ・自然や歴史文化など更木らしい地域資源に子ども達が触れる機会を増やします。

●働き盛り世代・地域らしい働き方・暮らし方

- 地域の特徴 -

- ・緑豊かな自然の中、自分らしい楽しみ方を実現できます。
- ・普段から住民同士のつながりがあり結束力が強いです。
- ・農事組合法人があり農業の持続発展に努めています。

- 現状の課題 -

- ・豊かな自然環境や健全な農地環境、地域の歴史文化を守り次世代に受け渡す取り組みが必要です。
- ・社会の変化への柔軟な対応や、多様な人々の暮らしを大切にする姿勢が必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・自然環境の整備、未利用の土地や空き家を活用する取り組みを進めます。
- ・特色ある地域の歴史文化を伝承・記録・発信する取り組みを行います。
- ・地域で働くことができる仕組みや環境づくりに取り組みます。
- ・住民間のコミュニケーションを円滑にし、多様な暮らしを尊重し合える地域環境をつくります。
- ・地域内での雇用場所の確保に努めます。

●ご高齢世代・いろいろなちがいのある人のために

- 地域の特徴 -

- ・市内でも高齢化が進んでいる地域の一つです。
- ・介護福祉施設と地域が連携し福祉を支えています。
- ・困ったときに近所同士で助け合える関係性があります。

- 現状の課題 -

- ・普段からお茶のみや交流ができる集いの場が必要です。
- ・地域内の困りごとに対応できる細やかな支え合いの仕組みが必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・交流センターや公民館など、地域内で気軽に集まり話ができる居場所を増やしていきます。
- ・送迎サービスや買い物代行などの互助による生活支援の仕組みを構築し、年をとっても安心して暮らせる地域をつくれます。
- ・誰もが生きがいや役割を持ち自分らしく社会参加ができる環境をつくれます。

●推進体制・負担軽減と新しい役割分担

- 地域の特徴 -

- ・人口減少、少子高齢化により、地域活動の維持が困難になってきています。

- 現状の課題 -

- ・地域の組織や役割を検証し、負担の少ない持続可能な体制へ変えていく必要があります。
- ・若者をはじめとしたこれからの担い手が参加しやすい環境づくりが必要です。
- ・自然や文化を知ってもらえる広報活動の取組が必要です
- ・少子化対策事業を継続して推進していく事が必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・行政区などの統合や、組織団体の役職の見直しを行い、負担の少ない体制づくりを進めます。
- ・行事の隔年開催や統合、簡素化などの整理を行い、無理なく参加しやすいものにします。
- ・情報通信技術などを活用し会議運営や広報物配布などの負担軽減に取り組みます。
- ・若者達がのびのび活躍できる場や、多様な主体のチャレンジを応援できる環境づくりに取り組みます。

● 黒岩地区 ●



現在の人口・世帯数

●人口：914人

●世帯：350戸

(令和3年1月末現在)

地域の将来像

●2040年の目指すべき地域像

「だれもが心豊かに暮らせるまち」

●私たちが2040年の地域に「残したいこと・伝えたいこと・大切にしたいこと」

人口減少・少子高齢化時代が進む中、地域のことは地域で行うことを基本とし、「心の豊かさ」と「人とのつながり」を大切に、誰もが心豊かな生活ができるような「地域」をつくり上げていかなければなりません。

●私たちが2040年に向け、これから地域で「変えなければならないこと」

そのために、地域住民や各種団体が協力し地域の課題に取り組む、地域住民の相互の連携と地域の大切さを見直し、高齢者、現役世代、そして若者、子どもたちすべてが共に支え合い、ふれあい、心豊かに暮らせるまちづくりを目指します。

私たちの目標

●地域の将来像の達成のために「2030年までに達成したいこと」

1. 小学校跡地を活用した「元気なまちづくり」

元気で楽しく、子どもから高齢者が安心して暮らせるように、黒岩の中心として地域サロンの充実、地域のコミュニティ、イベント会場として「跡地」を活用の場とする。

- (1)跡地活用委員会の立ち上げ、活用計画に基づく整備事業の実施
- (2)地区交流センターと産地直売所施設の活用
- (3)高齢者の交流施設
- (4)芸能団体等その他団体、学童保育所等の活用
- (5)黒岩まんなか広場、交流センター跡地の再活用検討

2. 農村景観と美しい自然環境を保全し、「快適な農村生活環境づくり」

農村の持つ多面的な機能を再評価し、豊かな自然と伝統文化等と調和した地域づくりを目指し、現風景を大切に保持し、安心・安全な生活環境の整備を進める。

- (1)農業経営の抜本的再構築
 - ・法人化による農業経営の推進
- (2)地産地消の拡大
 - ・地元で採れた農産物を産地直売所で多くの市民に販売し、消費拡大の促進により交流人口の増大
- (3)ふれあい・体験型農業の推進
 - ・子どもたちと高齢者が農業を通じた体験学習や、グリーンツーリズム事業等の積極的推進
- (4)安心・安全な環境整備
 - ・北上川左岸の築堤工事、及び県道花巻・北上線歩道整備事業の推進

3. 地域の歴史・伝統・文化を「楽しむまちづくり」

地域のつながりを深めるため、歴史・伝統・文化・お祭りなどを活用して地域づくりを進め、子どもたちへの伝承活動を推進する。

- (1)黒岩の歴史遺産を学び後世へ残して受け継ぐ
- (2)黒岩太神楽・めでた舞、地域の神楽等の伝承活動の推進

4. 高齢者が健康で「生きがいをもって暮らせるまちづくり」

高齢者の日常生活を支えていくため社会福祉協議会を通じて、諸問題への対応を図り、最適な体制づくりの推進を図る。

- (1)要支援者への支援、介護予防と合わせた支援サービス等を提供するため、住民活動やボランティアを含めた生活支援サービスの提供体制の確立
- (2)介護予防事業、見守り支援活動、サロン活動等の実施

計画推進の方向性の整理

●子ども・子育て世代のために

- 地域の特徴と課題 -

- ・人口減少の抑制が効かず少子化が著しい
- ・若者の地域離れが顕著
- ・親子での農業体験・自然体験活動の機会が少ない
- ・地域に愛着をもたない

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

1. 黒岩に愛着と誇りを持つ子どもの育成

小学校が地区外に移転することにより、地域への愛着が希薄になることが懸念されることから、地区に愛着を持つ子どもの育成に取り組む

- ・地域の自然・歴史文化・農業等の体験学習ができる事業を行い、黒岩に愛着と誇りを持つ子どもを育てる
- ・「白山わいわい塾」等の親子体験学習会の開催
- ・黒岩太神楽・めでた舞等の芸能伝承活動の充実
- ・小学校跡地を活用して子どもサロン等の交流できる機会の提供

2. 若者に魅力ある環境づくり

- ・地区の若者、子育て世帯が交流できるサロンに小学校跡地で取り組む
- ・若者が、地区行事の担い手として参加する機会を作り、黒岩に愛着を持つようなイベントの開催
- ・黒岩の魅力インターネット等で発信し、若者も住みたいと思うような地域を目指し、古民家、空き家情報等の提供

●働き盛り世代・地域らしい働き方・暮らし方

- 地域の特徴と課題 -

- ・若者、子どもの減少、活力の低下
- ・市街地、工業団地等へは比較的近い
- ・若者の地域離れが顕著
- ・若者に魅力のない生活環境
- ・農業後継者不足

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

1. 魅力ある黒岩の拠点づくり

- ・小学校跡地を活用し、交流センター、産地直売所、郵便局、子ども・高齢者等の交流できる場の整備

2. 拠点施設に伴うインフラ整備

- ・小学校跡地を経由する主要地方道花巻・北上線(三坊木交差点～馬場前)の整備

3. 安心・安全で利便性の良い地域環境づくり

- ・北上川堤防事業と県道花巻・北上線歩道整備事業の促進
- ・白山橋(仮称)の架橋により市街地、工業団地等への通勤、通学が良くなり若者等の定住化の促進

4. 地場産業の活性化

- ・農業法人等と連携し、農業経営の向上と体制の強化
- ・農業の担い手育成
- ・産地直売所の定着と6次産業化の推進

●ご長寿世代・いろいろなちがいのある人

- 地域の特徴と課題 -

- ・一人暮らし、高齢者のみの世帯の増加
- ・自立した日常生活の不安
- ・高齢者、障がい者の交流の場の不足
- ・外出手段の確保
- ・高齢者の介護予防、健康維持

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

1. 高齢者、障がい者の日常生活の支援

- ・支援を必要とするニーズを把握、買い物等の支援に取り組む
- ・「あすくろ号」の運行を充実し高齢者の足の確保に努める

2. 高齢者、障がい者の見守り体制づくり

- ・民生児童委員、福祉協力員、社会福祉協議会などの関係者と連携し見守り体制づくりの充実
- ・近隣住民により見守り体制の充実を図るため、ボランティアの確保・育成

3. 高齢者、障がい者の健康・生きがい活動の推進

- ・各地区のふれデイ等の活性化を図るため、合同開催の回数を増やす
- ・小学校跡地の中に、高齢者等がいつでも利用できるようなコミュニティの場所を確保し、交流・生きがい活動の推進を図る
- ・高齢者の健康づくりのため、健康体操、ウォーク活動、世代間交流、サークル活動等の事業の推進

●推進体制・負担軽減と新しい役割分担

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

1. 地域計画の実行体制づくり

- ・地域づくりの意識向上を働きかけ、幅広い地区民の参加により、まちづくりの実行体制を確立する。特に小学校跡地を中心とした「コンパクトシティ」のまちづくりを目指す
- ・「黒岩小学校跡地活用委員会」を立ち上げ、活用基本計画、及び事業実施計画を策定し、それに基づき事業展開の推進

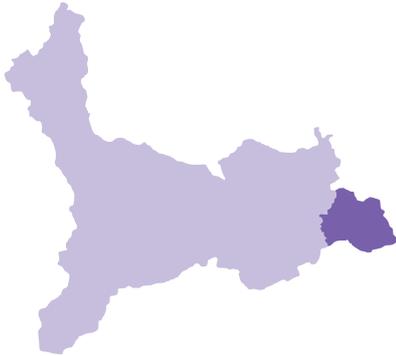
2. 段階的な取り組みの推進

- ・推進計画に優先順位をつけ、段階的な取り組みの推進

3. 取り組みへの担い手の確保と人材育成

- ・地域住民、各種団体との連携・強化を図る
- ・若者を中心とした研修会・先進地視察等を実施し、人材育成を図る
- ・地区内外への情報の受発信体制の確立

口内地区



現在の人口・世帯数

●人口：1,409人

●世帯：562戸

(令和3年1月末現在)

地域の将来像

●2040年の目指すべき地域像

住みやすく楽しい口内

～ 若者が定住するまちへ ～

●私たちが2040年の地域に「残したいこと・伝えたいこと・大切にしたいこと」

- ・手入れされた自然豊かな農村風景やそこでつくられるおいしい米やりんごなどの農産物
- ・浮牛城をはじめとした地域の歴史や郷土芸能や方言などの文化
- ・高齢者や困っている人に地域で声をかけあえる思いやりと支え合いの仕組み
- ・誰もが口内町で自分らしい楽しみ方をみつけられる豊かなライフスタイル

●私たちが2040年に向け、これから地域で「変えなければならないこと」

- ・これまでの当たり前を一度みつめなおし、次世代のために地域に合ったやり方を取捨選択していくこと。
- ・子どもの成長をサポートするために、学校や保育園、家庭、地域がまとまって取り組む。
- ・多様な町民の思いを大切に、それを丁寧に積み重ねて地域づくりに活かしていく。
- ・社会の変化によって生まれるさまざまな困りごとや課題に敏感に気づき、主体的に対応していく。

私たちの目標

●地域の将来像の達成のために「2030年までに達成したいこと」

- 推進体制・負担軽減と新しい役割分担 - - - - -

達成したいこと

- ・若い人達が活躍できる環境を作る

そのために必要な取り組み

- ・行事や事業の見直しをして負担の少ない体制を作る

- 子ども・子育て世代の為に - - - - -

達成したいこと

- ・子供たちの生きる力を育み、その成長と一緒に喜ぶことが出来る

そのために必要な取り組み

- ・地域全体で子供の成長を支援する体制づくり。

- 働き盛り世代・地域らしい働き方・暮らし方 - -

達成したいこと

- ・この地域で暮らしてよかったと思える地域づくり

そのために必要な取り組み

- ・地域の資源や文化を絶えることなく次世代へ伝える
- ・豊かな自然環境や田園風景を守る
- ・生活基盤(道路・医療・交通)を整える
- ・農地整備を進め、ICT化農業の推進

- ご高齢世代・いろいろなちがいがあある人の為に

達成したいこと

- ・高齢者等の生活支援の充実

そのために必要な取り組み

- ・いざという時に暮らしの困りごとを地域で支え合う取り組み
- ・地域防災体制の強化

計画推進の方向性の整理

●推進体制・負担軽減と新しい役割分担

- 地域の特徴 -

- ・人口減少と少子高齢化の影響により事業への参加者が年々少なくなっている。
- ・役員の平均年齢が高く、役職も多いため、担い手の確保育成に苦労している。

- 現状の課題 -

- ・将来への負担を減らすため、今まで慣例で行われてきた行事や組織を一度見直す必要がある。
- ・地域の担い手となる若い人材が活躍できる環境や意見が反映されるような場が必要。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・組織を見直し、負担の少ない体制を作る。
- ・事業や行事を整理し、必要な事業に絞る。
- ・若者に特化した事業に取り組む。
- ・地域計画の事業進捗確認をする。(5年に1回)

●子ども・子育て世代のために

- 地域の特徴(どんな子どもが育ってほしいか) -

- ・自己肯定感を持ち、多様性を尊重できる
- ・様々な関わりの中で主体的に学び続けられる
- ・つながりを大切にし、思いやりや感謝の心を持つ。

- 現状の課題 -

- ・学校と地域のより深い連携により子どもの成長に応じたサポートが必要。
- ・地域内での交流をとおして子供だけでなく大人も一緒に学び続けられる環境が必要。
- ・地域の中で子ども達の成長を本気で考え続ける場が必要。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・地域内の資源や人材を活用する仕組みを作る。
- ・子育て世代の交流事業を行う。
- ・子供たちの達成感を味わえる事業に取り組む。

●働き盛り世代・地域らしい働き方・暮らし方

- 地域の特徴 -

- ・東西に国道107号線、南北に456号線が走り県内どこへでもアクセスがよい。
- ・豊かな自然の中で季節の移り変わりを肌で感じながら豊かな田舎暮らしを楽しめる。
- ・農業以外の働く場が少なく、日中は町外の会社で働いている人が多い。

- 現状の課題 -

- ・豊かな自然環境、地域に根付く民俗芸能や方言、助け合える近所づきあい等を維持継承していく必要がある。
- ・これまでの固定観念を捨て、多様な生き方を尊重できる雰囲気づくりが必要。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・地域の資源や文化を学ぶ機会を作り、継続する。
- ・求める暮らし方が実現できるようにサポート体制を作る。
- ・豊かな里山と農地を活用するしくみを作る。

●ご長寿世代・いろいろなちがいのある人

- 地域の特徴 -

- ・少子高齢化が進み、高齢化率が45%を超えている。
- ・地域にあるコミュニティーやNPO等で、高齢者などの生活支援を行っている。

- 現状の課題 -

- ・高齢者や独居世帯、病気のある方などが孤独や不安を感じないような地域の見守り環境が必要。
- ・高齢化や生活様式の変化によりますます顕在化する生活支援のニーズを把握し、対応していくことが必要。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・高齢者等が気軽に移動できる手段を拡充する。
- ・お互いを支え合う関係を作る。
- ・高齢者等が集う場の支援をする。
- ・暮らしの困りごとの調査に取り組む。

● 稲瀬地区 ●



現在の人口・世帯数

●人口：785人

●世帯：278戸

(令和3年1月末現在)

地域の将来像

●2040年の目指すべき地域像

『悠久の歴史・景観、実りの大地 笑顔あふれるやすらぎの郷 稲瀬』

●私たちが2040年の地域に「残したいこと・伝えたいこと・大切にしたいこと」

- ・国見山・男山・樺山歴史の広場から見た美しい眺望
- ・ホテルが飛び交い、食の豊かさを与えてくれる農村景観
- ・国見山廃寺跡、樺山遺跡を中心とした歴史遺産とその文化を後世に伝える郷土芸能
- ・ほがらかで安心の地域コミュニティ

●私たちが2040年に向け、これから地域で「変えなければならないこと」

- ・個々の意見を尊重し、多様な視点・考え方を大切にします。
- ・特に、若者たちが参加しやすい仕組みを構築し、未来に向けた話し合いの場をつくっていきます。
- ・人口減少に対応した事業・取組みの見直しや、自治公民館・自治会・自治協議会の役割の見直しなどを進めることで負担を軽減し、必要な取組みに対して、注力できる環境をつくります。

私たちの目標

●地域の将来像の達成のために「2030年までに達成したいこと」(10年後)

1. 「何歳になっても稲瀬で豊かに暮らせる、つながりがあるまちづくりを進めます」

- ・子育て世代同士が交流できる場や地域で子どもを見守る仕組みをつくり、安心して子育てができる環境を整えます。
- ・コミュニティを生かし、日ごろのあいさつや声掛けを通じてちょっとしたときにお互いが助け合える関係性を構築します。
- ・世代交流やふれあいの場を増やすことで、年齢や性別、社会の壁をなくし、一人ひとりを大切な人として付き合えるやさしい地域をつくります。

2. 「将来の担い手が地域で生き生き活躍できるような体制や風土づくりを進めます」

- ・若い世代が地域活動に気軽に参加しやすい雰囲気づくりや事業の工夫を行います。
- ・若者の声に積極的に耳を傾け、その活動をさまざまな形で支援していきます。
- ・地域にある組織や役割を整理し、限られた人に負担が集中しないような体制を整えます。
- ・地域農業の担い手の高齢化や人材不足に対応するため、作業の集約化など効率のよい経営の仕組みづくりを進めます。

3. 「豊かな自然環境や文化を未来へ継承していきます」

- ・地域に伝わってきた郷土芸能などの文化や歴史に誇りを持ち、稲瀬らしさを大切に活動を進めます。
- ・自然景観をこれからも維持するための取組みを行うとともに、野生動物との共存を図ります。
- ・地域の自然や食を子ども達に体験させることで生きていく力を育みます。
- ・地域のことを知り学ぶ機会を持ち続けるとともに、その魅力を地区内外へ広く発信していきます。

計画推進の方向性の整理

●子ども・子育て世代のために

- 地域の特徴(どんな子どもが育ってほしいか) -

- ・コミュニケーションを大切にし、お互いを認め合える子ども
- ・何にでも興味をもち、関わろう、学ぼうとする子ども
- ・他人の気持ちを大切にし、思いやりのある子ども
- ・自然や食を大切にし、生きていく力を持つ子ども

- 現状の課題 -

- ・子どもの意見、声をしっかりと受け止められる関係をつくっていくことが必要です。
- ・自然体験や郷土芸能・伝統行事を大切に、地域らしい学びの場をつくっていく必要があります。
- ・学校や保育園とのつながりを深め、地域全体での子育て、教育に関する共通理解を持つ必要があります。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・あいさつをスタートとして、一緒に遊ぶ、一緒に考える時間をつくり、より多くのコミュニケーションの機会をつくれます。
- ・これまで続けてきた行事や伝統芸能、そして自然や農業などの体験ができる場をつくり、生きる力を育む機会をつくれます。
- ・子育て世代が交流できる場、地域全体で子どもを見守る仕組みをつくり、安心して子育てができる環境をつくれます。

●働き盛り世代・地域らしい働き方・暮らし方

- 地域の特徴 -

- ・雄大な奥羽の山並みを望む、四季折々の豊かな景観を楽しむことができます。
- ・自然の恵みと肥沃な土地により、豊かな農・食のある暮らしを楽しむことができます。
- ・居住地域が適度であり、日常的なゆるやかなコミュニケーションがあります。

- 現状の課題 -

- ・豊かな景観資源を維持するため、自然環境の保護・整備を進める必要があります。
- ・人口減少の中、地域のつながりをより大切にしていけることが必要です。
- ・地域や社会の変化に対応した柔軟な地域づくりの仕組みの構築が必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・国見山、男山、樺山歴史の広場等北上市を代表する景観を守り育てる活動を進めます。
- ・豊かな田園環境を維持する取組みや、ホテルや自然塾など自然環境をより楽しむための活動も推進します。
- ・固定的な考え方にとらわれず、多様な価値観を大切に、個々の取組みを応援できる体制をつくれます。

●ご長寿世代・いろいろなちがいのある人のために

- 地域の特徴 -

- ・近隣地区と同様に人口減少と高齢化が進んでいます。
- ・日常的に野菜の分けあいや草刈り、除雪の手伝いなど、助け合いの近所づきあいがあります。

- 現状の課題 -

- ・歳をとっても可能な限り稲瀬で暮らし続けられるよう、日常的なコミュニケーションを活かした見守りの仕組みが必要です。
- ・軽作業をする場や集まって食事をする場など、高齢になっても集まれる、役割を持てる仕組みが必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・顔の見える近所づきあいで何かしら変化を感じとれるコミュニティ、見守りの体制づくりを進めます。
- ・買い物や食事などが難しい人へ支援する取組みを地域内の企業・組織と連携をとりながら、できる範囲から進めます。
- ・地域で認知症等、支援が必要な人をサポートするための話し合いの場を定期的に開催します。
- ・多世代でのふれあいの場等、今の取組みや仕組みを活かしたつながりの場づくりを進めます。

●推進体制・負担軽減と新しい役割分担

- 地域の特徴 -

- ・人口減少の影響もあり、一人あたりの担うべき役割が増えています。
- ・行事によっては参加者を集めることも負担になっており、行事の見直しが必要な状況となっています。

- 現状の課題 -

- ・参加者を集めるものが難しい行事を中心に、事業の見直しや参加形態を自治会単位にするなど、参加方法の整理を行う必要があります。
- ・人口減少に伴い、ひとりの役員に負担が集中しない仕組みをつくる必要があります。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・体育行事の見直しや各種事業の開催頻度の見直し、事業の統合等を具体的に検討して、今後も必要な取組みについては、より充実させられる体制をつくれます。
- ・自治会単位での役割を整理し、役員数の整理、会議数の削減につなげます。
- ・有償ボランティアの活用などの必要な取組みに対して報酬を支払うなど、担い手の確保に向けた新しい仕組みを構築します。
- ・若い世代の役員を選出し、若い世代が活躍できる仕組みをつくれます。

● 相去地区 ●



現在の人口・世帯数

●人口：8,077人

●世帯：3,457戸

(令和3年1月末現在)

地域の将来像

● 2030年の目指すべき地域像

「自然・歴史・産業・ひとが輝く

共育・協働のまち相去」

このスローガンを実現するため、私たちは次のイメージを描きながら、地域活動を推進していきます。

松林に囲まれた緑豊かな大堤公園と、国指定史跡「境塚」のある私たちは、恵まれた自然と歴史を大切に、文化を育む豊かな生活があります。

市内屈指の産業拠点南部工業団地と、子供たちを育む豊かな文教施設のもと、人や物が行き交い、まち全体が躍動し、共に学びあい成長し、私たちは、一人ひとりが輝いています。

● 私たちが地域に残したいこと・伝えたいこと・大切にしたいこと

- ・誰もが楽しめる地域文化の構築・推進
- ・生活基盤の整備と隣接自治体との連携
- ・豊かな自然と文化の継承
- ・農業休耕地の有効活用推進

● 私たちがこれから地域で変えなければならないこと

- ・人材の活用と掘り起こし(若者、女性の登用)
- ・地域住民のコミュニケーションの活性化

私たちの目標

1. 自然環境の保護・保全

大堤公園を始め豊かで美しい自然環境を、市民の憩いの場として保護・保全していく。

2. 生活基盤の整備に係る要望活動

工業団地の物流を効率的に機能させる道路等整備要望を市と県に強く組織的に要望する。

また、地域の生活基盤インフラ整備の要望を市に対し強く要望する。

3. 少子高齢化に伴う支援

さまざまな視点にたってコミュニティの醸成を図り、少子高齢化に伴うサポート体制を確立する。

4. 総合的な史跡保護・保全

歴史遺産を保護・啓発する事業を積極的に進めているが、さらに、その活用を図り豊富な歴史環境の中で、文化を育み、豊かな人生を送ることができるよう総合的な取り組みを推進する。

5. 農業休耕地有効活用の推進

農業従事者の高齢化、後継者問題や休耕地の荒廃、耕作放棄地等により困難な農業経営ではあるが、休耕地と休耕地の活用及び特産品の推奨等様々な施策により農業の活性化を目指す。

6. 奥州市江刺・金ケ崎町との連携

地域住民の利便、通勤通学者・工業団地・総合運動公園利用者の公共交通の確保のため、並びに北上金ケ崎パシフィックルート実現のため、隣接する奥州市江刺及び金ケ崎町との住民相互の交流推進を行う。また、商圏・工業生産活動エリアとして、連携したまちづくりを進める。

7. 誰もが楽しめる地域文化の構築・推進

生涯スポーツ・趣味講座・奉仕活動等とおして、誰もが楽しめる地域文化を構築し推進する。

計画推進の方向性の整理

●子ども・子育て世代のために

- 地域の特徴 -

相去地区では15歳未満者の割合が高く、市内他地域に比較して少子化率はやや緩和されており、若い年齢層の割合は比較的高い地域であると言える。

- 現状の課題 -

安心して出産・子育てができる環境づくりの推進。

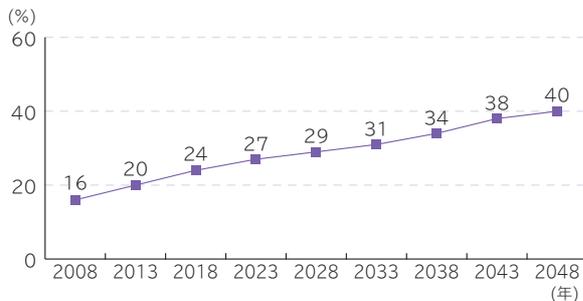
- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

少子化対策の取組みが重要、特に乳幼児を抱えるお母さん方の仲間づくりのための場の確保の推進。

●働き盛り世代そして生涯現役のために (この地域らしい暮らし方)

- 地域の特徴 -

■65歳～75歳の比率



定年以降の元気な世代比率の増加
(10年後で30%)

- 現状の課題 -

地域をより活性化するための牽引役としての参加促進

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

1954年10月1日、六原が金ヶ崎町に移管され、現在の相去となる。また、毎年10月1日は「生涯現役の日」(生涯現役の日制定・普及委員会より)として制定されている。そこで、次のスローガンを掲げ取り組むこととする。

～過去の生涯現役スローガン～

10月1日を「学べる」「働ける」「休める」まちとして地区民にPR

実現のために

- ・恵まれた運動施設を活用した生涯スポーツの推進
- ・趣味や得意とする講座、サークル活動の支援
- ・地域ボランティア活動への働きかけ
- ・豊かな文教施設を活用した共育・生涯学習の推進

●ご長寿世代のために

- 地域の特徴 -

独居老人世帯及び高齢者二世帯が増加している。

- 現状の課題 -

増加する高齢者が楽しく快適に生活できる体制づくりが確立していない。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

サポート体制確立のために様々な視点に立ちコミュニティの醸成を図る。以下、試案。

- ・高齢者公園の設置・高齢者サポート支援
- ・町民の体力づくりと生きがいづくり
- ・「相去シルバーだより」発行
- ・社協だよりの相去版、高齢者が欲しい情報の調査等

●計画実現に向けた推進体制(地域づくり組織運営・担い手等)

- 地域の特徴 -

現状の推進体制は、総務部会・保健福祉部会・文教部会・産業部会・建設環境部会の5部会。

さらに、各部会構成員は、過去10年の地域計画策定推進経験者が多数を占めている。

- 現状の課題 -

2030年に“一人ひとりが輝いている”ために、地域計画実現に幅広い世代の参画が十分ではない。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・現在の部会に、働き盛り世代、女性、外国人など、幅広い人材を加え、実現にむけた新しい考え方を取り入れる。
- ・女性部会(仮称)、海外文化交流部会(仮称)等の新部会設置を検討する。

● 鬼柳地区 ●



現在の人口・世帯数

●人口：5,646人

●世帯：2,349戸

(令和3年1月末現在)

地域の将来像

●鬼柳の現状

北上市のほぼ中央部南側に位置し、南北2km、東西5kmで、和賀川右岸南側に広がる平坦地に水田と住宅地が混在する地形に、人口の半数が中心部に集中し、東西に離れるに従い少なくなっている。小学校や交流センター、簡易郵便局、保育園等の公共施設も、地域の中心部に集中している。

地域の中央部に幹線道路として、県道北上和賀線が、その北側に市道鼠川原線が並行して東西に走っている。生活道路は、昭和中期の早い時期から行われた土地改良事業で農道として整備されたもので、現在においては幅員は狭く未舗装のままが多く、早期の整備が望まれる。

産業構造としては、明治・大正の時代から稲作を中心とした農村地域で農業が主体であったが、近年、市内及び近隣地域に企業立地が進み、多くが農業以外で生計を維持している。一方で専業の農家はごくわずかとなってきている。

合わせて住宅地の割合も年々多くなっている。

●目指すべき地域の将来像

『誰もが安心して、健やかにいきいきと暮らせるまち』、

『世代を超え、地域を超え交流のあるまち』へ

「誰もが安心して、健やかにいきいきと暮らせるまち」、「世代を超え、地域を超え交流のあるまち」を実現するため、生活環境の整備、防災や暮らしの安全に向けた取組み、相互扶助による福祉の充実、健康維持の仕組み作り、そして様々な交流を通じた広がりやの和を大切にしていきたい。

●地域の良いところ、そして将来に残したいこと、伝えたいこと、大切にしたいこと

当地域は大きな自然災害や犯罪、事故、危険箇所が少なく、西に奥羽山脈、北に和賀川が流れ、田園風景の中に住宅地が点在する自然豊かな土地柄である。また鬼剣舞をはじめとする郷土芸能活動が盛んで、若い世代への伝統文化の伝承に積極的である。

生活環境や自然・文化に恵まれていることを意識し、理解し、次世代に引き継いでいきたい。

●課題と、将来に向けて変えていきたいこと

高齢化が進む中、高齢者のみの世帯も多くなり、生活面での不安も増えている。また職住一体の農村社会から、近郊への勤め人が多くなる産業構造の変化に伴う職住分離や核家族化により、住民同士の結の精神や地域のつながりが薄くなってきている。

高齢者や生活弱者への相互扶助の仕組みを確立するほか、日頃からの交流が住民同士の支え助け合い精神の醸成につながることを理解し、知恵を絞り、自然体でその輪を広げていきたい。

●私たちの目標(達成したいこと、そのために必要な取組み)

1. 安全で安心を支える生活環境基盤の整備

- (1)身近な生活道路(市道)整備要望
- (2)国道4号都鳥交差点の立体横断施設の設置に向けた行動
- (3)用水路等の危険箇所に注意喚起の立て札を設置するなど通学路の安全性確保
- (4)雨水や生活雑排水が流れ込む農業用排水路を、全町民参加で清掃する等の環境保全活動
- (5)高齢者や移動手段を持たない人のコミュニティ交通の利用促進・充実

2. 安全で安心を支えるシステムの整備

- (1)想定される災害や高齢者避難誘導に対応した地域防災計画の見直しと、定期的な防災訓練の実施
- (2)子供や高齢者の見守りや防犯意識啓発運動等防犯活動の継続的推進、防犯カメラの設置検討
- (3)交通安全対策の推進と組織の在り方の検討

3. 誰もが安心して、健康に暮らし、いきいきと活動できる環境の整備

(1)地域の相互扶助を通じて、高齢者や障がいのある方も安心して暮らせる環境づくり

- ・小地域ネットワークによる見守り活動
- ・ボランティアによる除雪支援活動
- ・民生委員を中心に、福祉何でも相談の展開

(2)生涯現役を目指した健康管理や健康増進を支援する環境づくり

- ・生活習慣病予防食事指導会や健康教室、いきいき百歳体操、笑いで健康寄席等の健康維持活動
- ・ウォーキング教室、軽スポーツが気軽にできる環境整備等の健康増進活動

(3)いきいきと活動できる環境づくり

- ・ふれあいデイサービス事業
- ・生涯学習事業の充実

4. 世代間・地域間のコミュニケーションが図られ、地域の輪が広がるまちづくり

(1)地域の歴史・文化を知り、理解し、守り、次の世代につなげていく活動

- ・地域の歴史を学べるガイドブック作成、語り部の育成
- ・郷土芸能活動保存、育成を通じた承継活動

(2)地名由来の「鬼(肯定的面・人間性)」を町の象徴とし見える化し、関連イベントを通じて一体性のシンボルとして活用するなど、町民の一体感を創造する。

(3)海外からの労働者、観光客の受入れと交流で地域の活性化を図る、開かれたまちづくり

(4)幅広い世代が興味を持ち、参加できる生涯学習事業の推進

(5)小規模近隣公園整備、管理運営等の可能性検討

計画推進の方向性の整理

●子ども・子育て世代のために

- 地域の特徴と課題 -

小学生の登下校時の見守りや鬼剣舞の体験活動、ちびっこ防犯活動等地域が積極的に子育てに関与している。

一方で、国道4号の横断や通学路に農業用水路が並行するなど、危険を感じるエリアがある。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・地域と学校が連携・協働し、地域全体で子供の学び・成長を支える地域学校協働本部の設立
- ・国道4号都鳥交差点の立体横断施設設置要望(再掲)
- ・用水路等危険箇所での注意喚起立札設置(再掲) 等

●働き盛り世代そして生涯現役のために

- 地域の特徴と課題 -

社会活動の中心的担い手であり、又は定年を迎え自由時間を持てるようになった世代では、趣味と実益を兼ねた農作業に従事する者もいる。

これから高齢化を迎え、将来の生活や生涯現役を維持するための健康、体力の維持、そして地域コミュニティが薄れてきていること等に不安を感じている。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・健康維持と体力増進のため、気軽に利用できるトレーニングの機会の確保
- ・世代間・地域間交流で知り合いの輪が広がる、興味を持ち参加しやすい行事の実施や生涯学習の機会の確保

●高齢者世代・障がいを持つ人のために

- 地域の特徴と課題 -

75歳以上の人口は690人(R3・1月)、12.2%で市平均より若干少ない。この世代では「災害等非常時のことが心配」「買物や用足しの移動に不便」「相談相手が分からない」という声が寄せられている。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・災害時の高齢者の連絡、避難誘導方法の明確化
- ・地域の足・コミュニティ交通の利用促進・充実
- ・地域による見守り活動や除雪支援活動
- ・相談窓口の充実
- ・ふれあいデイサービス事業 等

●計画実現に向けた推進体制(地域づくり組織運営・担い手等)

- 地域の特徴と課題 -

地域づくり組織の鬼柳町自治振興協議会をはじめ、5つの行政区、23の自治公民館のほか、社会福祉、防災、防犯、交通安全、健康づくり、体育等地域を横断して活動する多くの組織が存在する。

しかし、活動が多くて煩わしいと感じたり、担い手の確保に苦労している状況である。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・それぞれの組織の活動の目的や事業内容を見直し、組織のあり方を検討・整理し、簡素化するなど、活動の効率化を図る。
- ・若い世代の興味、やる気を引き出して、自分たちが主体となって活動していくことのメリットや楽しさを実感できる仕組みを構築していく。

● 江釣子地区 ●



現在の人口・世帯数

●人口：11,982人

●世帯：4,919戸

(令和3年1月末現在)

地域の将来像

●2040年の目指すべき地域像

自然の恵みや人とのつながりを大切に、自分らしい生き方が出来る江釣子

●私たちが2040年の地域に「残したいこと・伝えたいこと・大切にしたいこと」

- ・多様な生き方が実現できる地域風土を大切にします。家庭や地域への関わり方や仕事の両立など、誰もが自分の生活を大切にしながら、地域に関わることが出来るようになります。
- ・各地区の特色ある自然・景観を次の世代へ残していきます。
- ・様々な世代交流の会を絶やさない工夫を大切にします。

●私たちが2040年に向け、これから地域で「変えなければならないこと」

- ・事業の企画や実施体制を、生活環境や時代のニーズに合わせて工夫していくことが必要です。
- ・誰もが、計画策定や事業運営に関わることが出来るような雰囲気を作っていくことが必要です。

私たちの目標

●地域の将来像の達成のために「2030年までに達成したいこと」(10年後)

1. 誰もが自分らしく関わることが出来る地域風土づくり
 - ・これまで経験のないことや新しいものを取り入れていく姿勢を大切にします。
 - ・男女問わず、育児や介護に関わることを応援できる地域を目指します。
 - ・障がいや生きづらさを抱える方の支えとなる活動を活発にしていきます。
2. いつまでも健康で笑顔で過ごすことが出来る地域風土づくり
 - ・支え手の魅力を発信し、誰もが支える側を目指せるような取組みをしていきます。
 - ・新しい考え方や価値観、物事を学ぶ機会を増やします。
 - ・年代を問わずに交流やつながりを作ることが出来る機会を設けます。
3. 良いものを取り入れることが出来る地域の運営体制の構築
 - ・地域運営に携わりたいと考える人々が、これまでの良い取組みやこれから必要となる視点を学ぶ機会を創ります。
 - ・市内他地区や外部組織との積極的な情報交換を行い、常に新しい視点を取り入れるようにします。

計画推進の方向性の整理

●子ども・子育て世代のために

- 地域の特徴 - - - - -
 - ・各地区ごとに特色のある自然(清水(すず)・桜・古墳公園等歴史資産等)と利便性が共存している。
 - ・民俗芸能が盛んな地域である。
 - ・児童生徒や高齢者との交流など、年齢の異なる方々との関わりの機会がある。
- 現状の課題 - - - - -
 - ・地域運営への子育て世代や子ども達の参加が困難になっている。
 - ・子どもが抱える課題だけでなく、育てる側(共働きの親や教員等)の悩みや苦勞を理解することが出来ていない。
 - ・地域行事の必要性に対する世代間でギャップがある。(例：地区のおまつりや運動会→毎年必ず実施が必要?という声もある)
 - ・若い世代の視点や、時代のニーズに応じた視点での意見を集め、事業実施に活かすための体制づくりがまだまだ整っていない。
 - ・新しいことを始めたり、考えたりする際に「できない」「昔は～」で終わってしまい、発展できないことがある。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・NPOや支援団体、PTAや教育関係者と連携し、子どもを育てたいと思える環境づくりを心掛ける。
- ・様々な世代が交流できる場として、新しい視点での活動機会の創出
- ・デジタル化等の新しい考え方にも触れ、良いものは学び、地域の活動や運営に取り入れる。

●働き盛り世代そして生涯現役のために

- 地域の特徴 -

- ・自然環境(清水(すず)・桜・歴史資産等)を大切にしている。
- ・交通の足、利便性、生活基盤が充実している。(病院や介護施設、ショッピングセンター等)
- ・伝統芸能を通じ、世代間の交流や地域住民のつながりが生まれている。
- ・人々のコミュニケーションの良さや協力し合える土地柄がある。

- 現状の課題 -

- ・誰もが多様に働ける場所や機会が少ない。
- ・地域格差(高齢化の進行の地域でのばらつき・交通の利便性)が存在している。
- ・少子化と人口減少を現実の課題とし捉えていく必要がある。
- ・男女ともに”仕事との両立”に課題を感じており(働きすぎ、働きにくさ)、仕事と生活の両立がまだまだ実現できていない。
- ・若い世代と高齢者世代の課題の捉え方、感じ方にギャップがある。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・地域内事業所やNPO等と連携し、誰もが仕事と私生活を両立していける環境づくり、それを後押しできる地域風土の醸成
- ・きめ細やかな高齢者へのサービス、老後を充実させていくための生涯学習の機会、新しい視点や考え方を取り入れる機会を設ける。
- ・多くの地域住民の意見集約が可能な体制づくりの工夫
- ・生活実態やニーズに合わせた、住民の交流事業を企画・実施
- ・伝統芸能を継承するだけでなく、若い世代が参加したくなる魅力の発信や、環境づくり

●ご長寿世代・障がいを持つ人のために

- 地域の特徴 -

- ・ご近所のつながり(あいさつや、ちょっとした手助け)ができる地域である。
- ・各地区ごとに特色のある自然(清水(すず)・桜・古墳公園等歴史資産等)と利便性が共存している。
- ・運動会等、地域住民が顔を合わせる機会があり、実施を支える人々も存在している。

- 現状の課題 -

- ・高齢化に伴い、支え手不足や担い手の育成が課題である。
- ・イベントや百歳体操、サロン等の場に誰もが参加できる雰囲気づくりが必要である。
- ・仕事と介護をどう両立していくのか、考えていくことが求められている。
- ・障がいのある方の実情や対応に対し、理解を深める機会が少ない。
- ・様々な課題を抱えている地域住民の意見をどのように集約していくかが課題である。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・担い手の育成と、担い手を目指したくなる環境づくり
- ・誰もが生き生きと地域に関わり、働き続けられる環境づくりを目指し、事業やイベントの在り方を考える。
- ・区内事業所やその他民間企業、NPOや支援者団体と連携し、支援が必要な地域住民に対する細やかなサービスに取り組む。

●計画実現に向けた推進体制(地域づくり組織運営・担い手等)

- 地域の特徴 -

- ・事業の担い手不足、参加者が限られている。
- ・事務局の負担が増大している。
- ・世代毎のコミュニケーションが希薄化している。

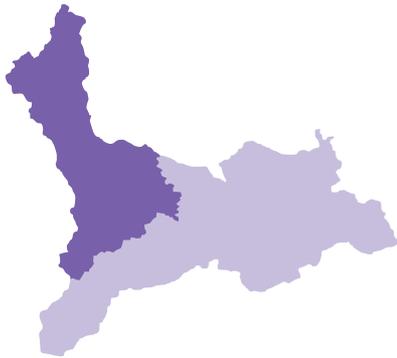
- 現状の課題 -

- ・活動する人が限られ、高齢化しており、若い世代の参加率や地域に関わることへの関心も薄れつつある。
- ・それぞれのニーズに合わせた周知や広報の在り方を考える必要がある。
- ・地域行事、集会が多く、“強要”の雰囲気も感じる。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・地域のニーズや運営体制の現状に合わせて、事業の整理、見直しを進める。
- ・事業内容に応じ、最適な方法や人材を選択し、事務局負担を軽減するだけでなく、関わる人々が楽しく仕事や活動できる環境を作ることで、本質的な成果(地域住民の活動のサポート)により注力できる体制づくりを進める。
- ・地域に関心を持った住民の誰もが、地域運営や地域行事に関わりやすい工夫や雰囲気づくり。
- ・様々な制度やシステム以前に風土そのものを今の時代に合わせて柔軟に変えていく。
- ・子育て世代や障がいのある方、子どもや高齢者も共に手を携え、地域住民全てが笑顔でいられるよう、それぞれの課題を認識するだけでなく、それぞれの考えを否定せず、受け入れることが出来る地域となることを一人ひとりが心掛ける。

● 和賀地区 ●



現在の人口・世帯数

●人口：4,329人

●世帯：1,637戸

(令和3年1月末現在)

地域の将来像

●2040年の目指すべき地域像

美しい山並と清流と人々が共に生きるなごみのまち和賀
～水と緑と笑顔(ほほえみ)に囲まれて～

和賀地区は、和賀三山や美しい山並と、和賀川・尻平川・鈴鴨川など清流に囲まれた自然あふれる地域です。和賀の自然と人々が共に生きながら、笑顔あふれる和(な)ごみの地域を目指します。

●私たちが2040年の地域に「残したいこと・伝えたいこと・大切にしたいこと」

- ・和賀三山と和賀川、尻平川、鈴鴨川に育まれた豊かな自然と田園風景
- ・各地区の祭り、郷土芸能など、これまで培ってきた郷土の文化・歴史
- ・子ども達の笑い声、地域の中での助け合い、年代・世代をこえたつながり

●私たちが2040年に向け、これから地域で「変えなければならないこと」

- ・過去にこだわらない、新しい視点、考え方を大切にします。
- ・教育環境を充実させ、若者が希望を持てる地域に育てていきます。
- ・年をとっても、安心して暮らせるための助け合いの社会づくりを進めていきます。

私たちの目標

●地域の将来像の達成のために「2030年までに達成したいこと」(10年後)

1.「幅広い世代が活躍できる地域づくりの仕組みを構築します」

- ・幅広い世代が学びあい、自由に意見が言える場をつくります。
- ・特に20代～40代の人達が話し合い、地域に提案できる環境をつくっていきます。
- ・過去にこだわらない新しい視点を地域づくりに取り入れていきます。
- ・必要な取り組みを行うためにも、負担軽減に向けた行事・事業・会議および組織・役員の見直しを行います。
- ・有償ボランティアなど、新しい参加の仕組みをつくります。

2.「つながりを活かした安心の仕組みをつくります」

- ・伸びやかな子どもが育つために、子育て・教育を支える仕組みをつくります。
- ・地域の結を活かした高齢者の交流、助け合いの場を増やしていきます。
- ・地域内での多世代での交流の機会をつくり、地域内で良好なコミュニケーションを増やします。

3.「豊かな自然を守り、それを活用する取り組みを進めます」

- ・自然と共存し、元気に遊びまわられる子ども達を育てます。
- ・和賀三山、里山、清流といった大切な自然景観を守ります。
- ・産業としても大切な田園景観を維持していきます。
- ・美しい景観を再認識し、それを守るための仕組みをつくります。

計画推進の方向性の整理

●子ども・子育て世代のために

- 地域の特徴(どんな子どもが育ってほしいか) -

- ・自分のやりたいことを持ち、それに向かって行動できる子ども
- ・自然と共生し、元気で明るく遊ばまれる子ども
- ・他人への思いやりの心を持ち、多様な人とコミュニケーションが取れる子ども

- 現状の課題 -

- ・子どもがやりたいことを見つけ、それを実現できるように、子どもの主体性を尊重する仕組みが必要です。
- ・学校と地域の連携など、地域特性を活かした学びの場づくりが必要です。
- ・互いを思いやること、主体的に取り組むことなど、大人が率先して模範を見せる姿勢が必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・地域特性を活かした学校教育の実践や、学校間の連携の推進など、地域と学校のさらなる連携を進めます。
- ・周囲の環境に対する基本的な知識を身に着け、生きる力を伸ばす取り組みを進めていきます。
- ・それぞれの取り組み等で子どもの主役の場をつくるなど、子ども達が考え、実践する機会をつくり、子ども達のリーダーシップを育みます。

●働き盛り世代・地域らしい働き方・暮らし方

- 地域の特徴 -

- ・美しい景観に囲まれ、自然との関わりを大切にしたい暮らしが実現できます。
- ・自然のめぐみや、地域の行事など、季節ごとの楽しさを実感できます。
- ・広大な自然の中で、思いっきり自分の楽しみを実現できます。

- 現状の課題 -

- ・固定的な考え方を換え、それぞれの暮らしを尊重し合う雰囲気づくりが必要です。
- ・豊かな自然を維持するための取り組みが必要です。
- ・人口減少・高齢化にあわせた、それぞれの働く場、活躍する場づくりが必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・豊かな自然を守るための整備や、それぞれができる取り組みを進めていきます。
- ・有償ボランティア等、さまざまな人がより活躍できる仕組みをつくっていきます。
- ・さまざまなながいを受け入れ、地域外や国外等、いろいろな人が関わりやすい、住みやすい地域をつくりたい。

●ご長寿世代・いろいろなながいのある人のために

- 地域の特徴 -

- ・自治会によっては、高齢化率が50%を超えるなど、市内でも高齢化が進んでおり、また一人暮らしの高齢者も増えています。
- ・自治会や部落会等、人と人のつながりを大切にしています。

- 現状の課題 -

- ・定期的にかつ気軽にあつまれる場、困ったときに相談できる場が必要です。
- ・区内での見守りや助け合いの仕組みなど、高齢になっても助け合える仕組みづくりが必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・趣味の会のサークルや公民館でのお茶っこと、小さな単位で気軽に集まれる場を地域内で増やしていきます。
- ・ちょっとしたときの声がけなど、普段の生活の中でのコミュニケーションを大切にするとともに、何かあったときに気づきあえる関係をつくっていきます。
- ・買い物や食事支援など、生活に必要な取り組みを、それが可能な高齢者が担うなど、高齢者が助け合いで活躍する場をつくります。

●推進体制・負担軽減と新しい役割分担

- 地域の特徴 -

- ・地域が広く、また雪も多いために、日常での草刈り、雪かき等の負担が大きいです。
- ・人口減少、少子高齢化の影響もあり、様々な取り組みに集まる人が限定的になっています。

- 現状の課題 -

- ・新しい担い手の参加に向けて、特に若者達にとって魅力的な取り組みの推進が必要です。
- ・そもそもの担い手が減少しているために、これまでの地域の組織や役割を検証し、負担の少ない体制へ変えていく必要があります。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・自治会の統合を含め、自治会組織を精査し、組織の見直しと各種団体の役員の見直しを行い、これからの時代に合わせた体制づくりを進めます。
- ・これまで続けてきている様々な行事を見直し、隔年化や行事の統合など、必要に応じて負担の少ないかたちに変更していきます。
- ・若者達が主役となれる場をつくるとともに、否定をしないで、それぞれのチャレンジを認め合える雰囲気づくりを進めます。
- ・どんな地域でありたいかの思いを共有するための場をつくり続けていきます。

● 岩崎地区 ●



現在の人口・世帯数

●人口：2,562人

●世帯：842戸

(令和3年1月末現在)

2040年(20年後)推定人口 約1,500人(-1,100人)

(高齢化率 40%→50% 75歳以上 20%→31%へ)

地域の将来像

●2040年の目指すべき地域像

「豊かな自然と観光 歴史と文化をいつくしみ
心かよう 住み良いまち いわさき」

●私たちが2040年の地域に「残したいこと・伝えたいこと・大切にしたいこと」

- ・国指定の岩崎鬼剣舞をはじめとする郷土芸能や伝統行事など地域に根付く文化を伝えていきます。
- ・夏油の山々、夏油川といった豊かな自然環境や田園風景を残していきます。
- ・岩崎城址などをはじめとする歴史的資産や温泉およびスキー場などの観光資源を活かしていきます。
- ・青年会活動をはじめとした地域コミュニティ活動を大切にしています。

●私たちが2040年に向け、これから地域で「変えなければならないこと」

- ・人口減少社会の中で持続可能な地域づくりを進めるため、自治会や自治協組織の見直しを行い、負担の少ない形で次世代へ受け渡す必要があります。
- ・コロナ禍の経験を生かし、これまで当たり前続けてきたイベントや集会を見つめなおすことで、必要なものを整理確認し、さらに充実したものにしていきます。
- ・新しいチャレンジが尊重、応援されるような地域にすることで、若者たちがどんどん活躍していける地域をつくっていきます。

私たちの目標

●地域の将来像の達成のために「2030年までに達成したいこと」(10年後)

- 子ども・子育て世代 -

1. 自分の考えや意見をしっかり持ち伝えることができ元気にあいさつができる素直で明るい子ども

- ・なるべく多くの一流の人に接する機会を作り、一流の体験をさせます。
- ・地域と学校と子育て世代が一体となり、子供の成長を支えます。

2. 自然や歴史、コミュニティなどの地域の特徴を理解し、誇りを持って伝えられる子ども

- ・地域の歴史や郷土芸能を学び、未来展望につながる学習を地域の人と一緒に行います。

- ご長寿世代 -

1. ちょっとした困りごとにも地域で対応できるような生活支援の体制づくりと地域活動への参加をし易いものになります。

- ・世代間交流を含め、身近で気軽に集まれるコミュニティづくりを進めます。
- ・困っている人がわかる制度と、地域ボランティアや支援の体制づくりを進めます。

- 岩崎らしい働き方、暮らし方 -

1. 豊かな自然景観を維持し、民俗芸能が生活の中に溶け込み継承されること

- ・世代間を超えて、自然環境を守り観光資源を活かすための活動や仕組みづくりを進めます。
- ・年中行事のありかたを見直ししながら、地元の郷土芸能を学ぶ機会をつくります。

2. お互いのいろいろな働き方や暮らし方を学び合い話し合い、これからの時代に合った仕事の仕方や生活の中で地域の役割や居場所がある暮らし

- ・様々な世代間や地域間の地域コミュニティ活動の充実を図ります。

- 推進体制・負担軽減や新しい役割分担 -

1. これまでのやり方に固執せず、新しいやり方を模索して地域活動の負担を減らす

- ・自治協や自治会の組織および各種役員、更には地域の見直しも視野に、より地域に合った形での活動を進められる体制を構築します。
- ・これまでの事業を整理し、時代に合わせて必要なものを適正な単位(回数や区域)や規模で実施していきます。
- ・さまざまな技術の活用や発想で、より多くの住民が負担の少ない形で地域活動に参加できるように仕組みをつくっていきます。

2. これからの地域の担い手を育てる

- ・いろいろな世代や層の参加を巻き込んで、継続的に地域の将来や学びの場を作ります。
- ・県内外や世界からの岩崎地区サポーターを作っていきます。

計画推進の方向性の整理

●子ども・子育て世代のために

- **地域の特徴(どんな子どもを育てたいか) - - -**
- ・どんな状況でも前向きな思考を持ち、大事なことを見つけられる生きる力を持った子ども。
- ・自分の考えや意見をしっかりと伝えることができ、リーダーシップを発揮できる子ども。
- ・誰にでも分け隔てなく元気にあいさつができる素直で明るい子ども。
- ・自然や歴史、コミュニティなどの地域の特徴を理解し、誇りを持って伝えられる子ども。
- **現状の課題 - - - - -**
- ・地域資源をさらに活用した、岩崎らしい教育環境を充実させる必要があります。
- ・教育を取り巻く環境の変化を敏感に捉え、対応できる地域の体制が必要です。
- ・地域のさまざまな場面で多様な人と交流することで、人間関係の基本を学ぶことが必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・豊かな地域資源や人材を積極的に活用し、学校と地域、保護者が一体となって子どもの成長を支えていきます。
- ・家庭内での会話や地域でのコミュニケーションを通じて、子どもの自己肯定感や主体性を育んでいく取り組みを行います。
- ・子どもの教育について、地域が常に学ぶ機会を持つことで社会変化に迅速に対応し、よりよい教育環境を整えていきます。

●働き盛り世代・地域らしい働き方・暮らし方

- 地域の特徴 - - - - -

- ・自然の中で、趣味を楽しみながらゆったりと暮らすことができます。
- ・地域の中に自分の役割や居場所があります。
- ・民俗芸能が生活の中に当たり前溶け込み継承されています。

- 現状の課題 - - - - -

- ・豊かな自然景観をこれからも維持するために、保護や整備を進める必要があります。
- ・これまでの固定観念にとらわれず、それぞれの働き方や暮らし方を尊重することが必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・夏油の山々、夏油川、田園風景といった豊かな自然環境を人口減少社会にあっても守り残していくための活動や仕組みづくりを行います。
- ・青年会活動をはじめとした地域コミュニティ活動を大切に、さらなる充実を図ります。
- ・地域に伝わる歴史や文化に理解を深める場をつくりながら、その伝承活動を進めていきます。
- ・多様性を尊重し、意見の押し付けをせず、それぞれのチャレンジを応援できるような地域の雰囲気をつくります。

●ご長寿世代・いろいろなちがいのある人のために

- 地域の特徴 - - - - -

- ・少子高齢化の影響により、高齢者の生活環境の確保の必要性が年々高まっています。
- ・ご近所同士のつながりがあり、お互いに声を掛け合い情報交換するなどの交流があります。

- 現状の課題 - - - - -

- ・ちょっとした困りごとに地域で対応できるような生活支援の体制づくりが必要です。
- ・ふれあいデイサービスなど、参加者が限定的になっている地域活動を参加しやすいものに変化させる必要があります。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・ご近所付き合いをさらに充実させ、顔の見える関係づくりをすることで、いつでも助け合える環境をつくります。
- ・世代交流や地域活動への参加の機会を増やすことで、生きがいや役割を感じ、そして刺激を受けられる地域コミュニティをつくります。
- ・送迎や買い物など、暮らしの困りごとを地域住民でお手伝いできる支え合いの仕組みづくりに取り組みます。
- ・公民館を開放したサロン活動など、気軽に集まれるいこいの場を地域に増やしていきます。

●推進体制・負担軽減と新しい役割分担

- 地域の特徴 - - - - -

- ・人口減少の影響により、地域活動ができなくなってきたり、参加者に偏りが出てきています。
- ・組織や農業の担い手が不足しています。

- 現状の課題 - - - - -

- ・地域活動の負担を減らすため、これまでのやり方に固執せず、新しいやり方を模索する必要があります。
- ・これからの担い手を育てるための地域での持続的な取り組みが必要で。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・自治協や自治会の組織および各種役員を見直し、より地域に合った形での活動を進められる体制を構築します。
- ・これまでの事業を整理し、時代に合わせて必要なものを適正な単位(回数や区域)で実施していきます。
- ・さまざまな技術を活用しながら、より多くの住民が負担の少ない形で地域活動に参加できるように仕組みをつくっていきます。
- ・若い世代を巻き込んだ地域の将来を話し合う場、学び合う場をつくっていきます。

● 藤根地区 ●



現在の人口・世帯数

●人口：5,155人

●世帯：1,895世帯

(令和3年1月末現在)

地域の将来像

●2040年の目指すべき地域像

創造とささえ合いで 笑顔あふれる郷

～ スマイル&サポート ふじね ～

●私たちが2040年の地域に「残したいこと・伝えたいこと・大切にしたいこと」

- ・豊かな自然と田園景観
- ・地域の文化と平和の思い
- ・人と人とのつながり

●私たちが2040年に向け、これから地域で「変えなければならないこと」

- ・地域の良さや可能性を考える機会、学ぶ機会を持ち、時代の変化に合わせた取り組みを進めなければならない。
- ・人口減少にあわせた地域内の組織体制や行事・会議の見直しを行い、必要なことを続けられる体制をつくらなければならない。
- ・女性や若者の力が発揮しやすい環境をつくり、いろいろな人が活躍できる仕組みをつくらなければならない。

私たちの目標

●地域の将来像の達成のために「2030年までに達成したいこと」(10年後)

1. 地域と共に成長する子どもを育てるために

- ・あいさつなど生活の中でのコミュニケーションをもつ。
- ・さまざまな取り組みにも参加しやすい雰囲気をつくる。
- ・世代間交流を推進し、地域が持っているさまざまな知恵や文化を学ぶ機会をもつ。

2. 高齢者の生活支援など支え合いの文化を育てるために

- ・近所での声がけやちょっとした支え合いをより進める。
- ・普段から気軽に集まれる場をつくる。
- ・元気な高齢者が生活支援を行うなど、何歳になっても自分の力を活かせる仕組みをつくる。

3. 地域らしい豊かな暮らしをするために

- ・豊かな自然と田園風景を維持する。
- ・郷土芸能など地域の文化を大切に、平和の思いを未来に伝える。
- ・自分の住んでいる地域の良さや可能性を考える機会をもつ。

4. 人口減少でも必要なことを続けられる推進体制をつくるために

- ・自治会や各種団体の、組織や役割分担の見直しをする。
- ・地域内の行事や会議の見直しをする。
- ・女性や若者などの参加を得られる仕組みをつくる。

計画推進の方向性の整理

●子ども・子育て世代のために

- 地域の特徴(どんな子どもを育てたいか) - - -

- ・創造性豊かに自分の夢にむかって積極的に挑戦する子ども
- ・人の痛みがわかる、思いやりのある子ども
- ・自然を大切に、地域と共に成長する子ども
- ・いろいろな人とつながることができる、元気で笑顔のある子ども

- 現状の課題 - - - - -

- ・地域で学ぶことを大切に、子ども達中心の学ぶ環境を整える必要があります。
- ・世代を超えた多様な交流の中で、地域が持っているさまざまな知恵や文化を学ぶ機会を充実させる必要があります。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・学校と連携しながら、子ども達の夢の実現に向け、子ども中心の地域で学ぶ場を増やしていきます。
- ・世代間交流を推進し、地域でこれまで培ってきた知識・経験を体験できる取り組みを大人も一緒に楽しみながらつづけていきます。
- ・あいさつから始まる日常的なコミュニケーションを大切に、さまざまな取り組みにも参加しやすい雰囲気をつくります。

●働き盛り世代・地域らしい働き方・暮らし方

- 地域の特徴 - - - - -

- ・四季を感じられる豊かな自然があります。
- ・中心市街地と程々の距離感があり、生活に必要な機能が身近にある中でのどかな生活を送ることができます。
- ・気軽に声をかけてくれる人が多く、助け合いの雰囲気があります。

- 現状の課題 - - - - -

- ・地域で高齢化が進み、地域行事のあり方や役割分担を見直す必要があります。
- ・豊かな田園風景を維持するためにも、耕作放棄地への対応を含めた、持続可能な農業に向けた取り組みが必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・多面的な農業の価値を認識し、農業の持続に向けた取り組みを進めます。
- ・地域独自の文化である郷土芸能と平和に関する考え方を後世に引き継ぐための取り組みを進めます。
- ・よいところは残しつつ、新しい考え方を取り入れていくために自治会組織の在り方の見直しを行います。

●ご長寿世代などすべての人のために

- 地域の特徴 - - - - -

- ・地域が広く、藤根・後藤では人口減少が進み、高齢者の増加が進んでいます。
- ・日常的なあいさつによる隣近所とのコミュニケーションがあり、支え合いの文化があります。

- 現状の課題 - - - - -

- ・日常的な声かけなど、何か困ったときに声をかけやすい雰囲気大切にする必要があります。
- ・普段から気軽に集まれる場をつくる必要があります。
- ・買い物、通院、除雪等、ひとりでは難しい状況になったときの支援の仕組みをつくる必要があります。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・ひとりひとりが支える側にも支えられる側にもなると意識し、近所での声かけやちょっとした支え合いをより進めます。
- ・日常生活で困ったとき、不安なときに相談しやすい仕組みをつくります。
- ・定期的に近所で集まれる場をこれまで以上に増やします。
- ・高齢者が子どもを教えたり、元気な高齢者が生活支援を行うなど、何歳になっても自分の力を活かせる仕組みをつくります。

●推進体制・負担軽減と新しい役割分担

- 地域の特徴 - - - - -

- ・人口減少が進んでおり、地域づくりの担い手が不足しています。
- ・各種行事への参加者数が減少しており、特に若者の参加が少なくなっています。

- 現状の課題 - - - - -

- ・地区の行事や会議への参加者数の減少が進んでおり、行事を見直す必要があります。
- ・人口減少に対応した自治会や各種団体の組織を見直す必要があります。
- ・女性や若者が参加する機会が少なく、多様な参加を得られる仕組みをつくる必要があります。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・自治会と自治公民館の統合等、これからの状況にあった組織の見直しを行います。
- ・統合や合同開催等これからの状況にあった行事の見直しを行います。
- ・若者や子ども達が主役になって事業を進める仕組みをつくります。
- ・有償ボランティアやICTの活用など、負担軽減に向けた新しい仕組みの導入を進めます。

